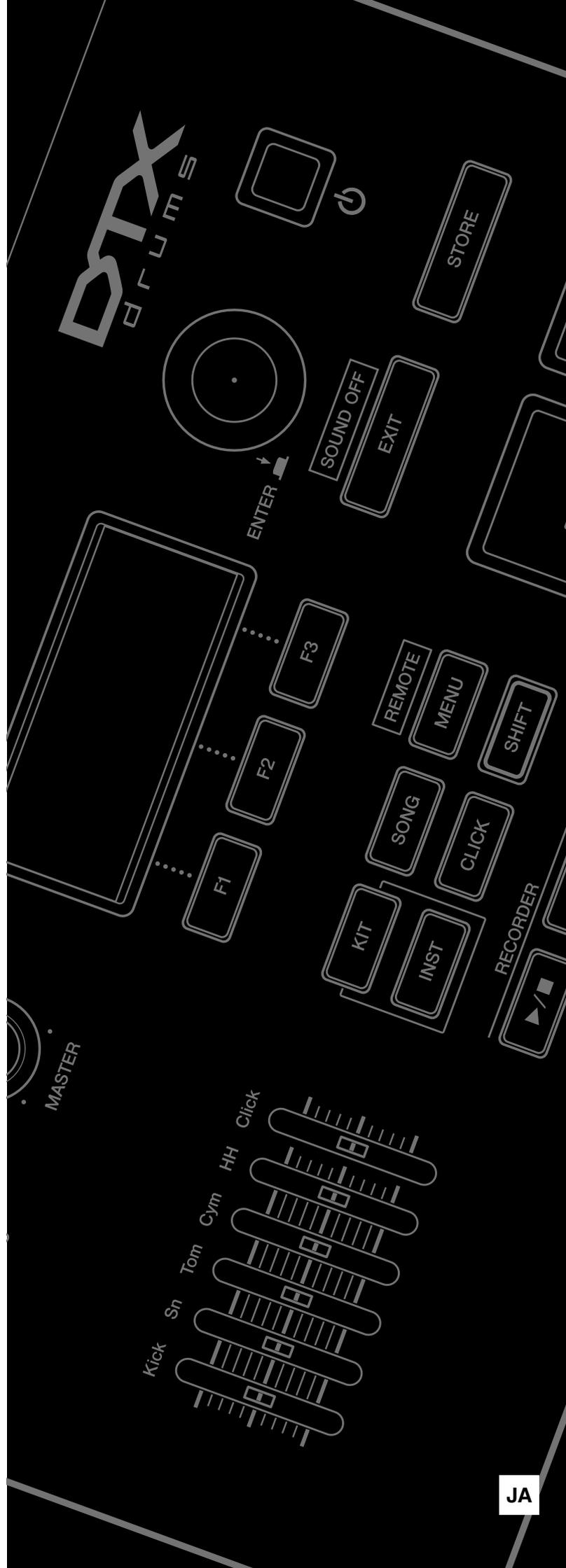


DTX drums

DRUM TRIGGER MODULE

DTX700

取扱説明書
(準備編/基本編)



紙で見ると (目次: 6 ページをご覧ください。)

はじめに
読む

『取扱説明書』(準備編/基本編)... 本書

必要な
ときに読む

『データリスト』... 別冊



コンピューターで見ると (PDF ファイル)

必要な
ときに読む

『リファレンスマニュアル』(詳細編)

以下サイトからダウンロードしてご覧ください。
<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの（57 ページ）を使用する。
異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上にもろそうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

禁止

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



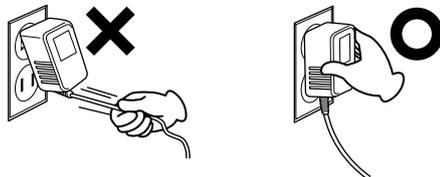
たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンド/ラックを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がかげがをするおそれがあります。



パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。

禁止



本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

禁止



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

禁止



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態（電源スイッチがスタンバイの状態）でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記（ご使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります（5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています）。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。
- ・手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。

■データの保存に関する注意

- ・保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USB 記憶装置 / コンピューターなどの外部機器に保存してください。
- ・保存した USB 記憶装置 / 外部メディアの万一の事故に備えて、大切なデータは予備の USB 記憶装置 / 外部メディアにバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■データの著作権に関するお願い

- ・ヤマハ（株）および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・MIDI は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■本体ファームウェアのバージョンについて

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、不定期に製品本体のファームウェアをアップデートすることがあります。本体の最新バージョンについては、以下のウェブサイトを確認、ダウンロードすることができます。お使いの本体についても、本体ファームウェアを最新バージョンにアップデートされることを推奨します。

<http://www.yamaha.co.jp/product/drum/ed>

なお、この取扱説明書では、本書制作時のバージョンで説明しております。お使いの本体のバージョンの確認方法やその機能 / 操作についても、上記ページでご確認いただけますよう、お願いいたします。

■パッドについて

この取扱説明書では、本体に接続できるパッドの品番を掲載していますが、これらは本書制作時点での最新品番です。その後発売された最新品番については、下記のウェブサイトでご確認いただけますよう、お願いいたします。

<http://www.yamaha.co.jp/product/drum/ed>

※ウェブサイトの URL は予告無く変更することがあります。

はじめに

このたびは、ヤマハDTX700をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。DTX700の優れた機能を十分にご活用いただくために、この取扱説明書をよくお読みください。また、ご一読いただいたあとも、不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管いただきますようお願いいたします。

取扱説明書の読み方

本書（準備編 / 基本編）

主にパネル上での操作について説明しています。

データリスト

本体に収録された音色やキットの名前、MIDIに関する資料を掲載しています。

リファレンスマニュアル（詳細編）※本製品には付属していません。

DTX700 本体の [MENU] (メニュー) を押すと表示される、すべての機能について説明しています。

リファレンスマニュアル (PDF) は本製品には付属していません。本製品のより詳しい使いかたを調べたい場合は、以下のヤマハマニュアルライブラリー (ウェブサイト) からリファレンスマニュアル (PDF) をダウンロードしてご利用いただけますよう、お願いいたします。

<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

※ウェブサイトの URL は予告無く変更することがあります。

PDF マニュアルの活用方法

リファレンスマニュアルは、電子ファイル (PDF 形式) になっています。これらの電子ファイルは、コンピューターを使ってご覧いただくことができます。コンピューターでご覧いただくソフトウェアとして「Adobe® Reader®」を使うと、用語をすばやく検索したり、必要な部分のみ印刷したり、リンクをクリックして該当する項目を開いたりすることができます。特に用語検索とリンク機能は、電子ファイルならではの便利な機能です。ぜひご活用ください。

最新の Adobe Reader は下記の URL よりダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/jp/products/reader/>

付属品（お確かめください）

- 電源アダプター
- モジュールホルダー
- 取扱説明書（本書）
- モジュールホルダー固定ネジ× 4 本
- データリスト
- 保証書
- DAW ソフトウェアダウンロードについて

目次

はじめに	5
取扱説明書の読み方	5
付属品 (お確かめください)	5
最初にやっていただくこと	7
クイックガイド	8

準備編

各部の名称と機能	10
フロントパネル	10
左サイドパネル	11
リアパネル	12
音を出すまでの準備	13
電源の準備	13
スピーカーやヘッドフォンをつなぐ	13
携帯用音楽プレーヤーなどをつなぐ	13
電源オン	14
電源オフ	14
オートパワーオフ (自動電源オフ)	14

基本編

デモソングを聞く	16
DTX700の基本操作	17
ツマミ (押しボタン一体型)	17
カーソル上の値を変える	17
カーソルを移動する	17
[-/DEC]/[+/INC] ボタン	18
[F1]~[F3] (ファンクション) ボタン	18
音量の調節	19
LCDのコントラスト調節	19
設定の保存 (ストア)	21
USB記憶装置 (デバイス) を接続する	21
本体の設定を初期の状態に戻す (ファクトリーセット)	22
ドラムパッドの叩き方	23
スネア/タム	23
ハイハット	23
シンバル	24
いろいろなキットを使って演奏する	25
キットを切り替える	25
ドラムセット全体の感度設定を切り替える	26
音質を調整する	27
音響効果 (リバーブなど) をオフにする	28
キットを初期化する	28
液晶ディスプレイ (LCD) 表示を切り替える	29

自分だけのキットを作る	30
音色 (インスト) を選ぶ	30
インストの音を調整する	31
ツーンバス (ツインバス) で演奏する	32
パッドにオーディオファイルを割り当てる	32
作ったキットに好きな名前をつける	34
スナッピー (響き線) の調整をする	35
ソング (曲) にあわせて練習する	36
ソングを再生する	36
ソングのドラム以外の音量を調整する	36
ソングのドラムだけ音量を調整する	37
ソングのドラムだけミュート (消音) する	38
ソングのベースをソロ演奏にする	38
ソングを選んだときにキットが 切り替わらないようにする (KIT LOCK)	39
クリック (メトロノーム) を鳴らす	41
テンポを設定してクリックを鳴らす	41
クリックの音量を調節する	41
クリックを鳴らすときの拍子を選ぶ	43
タイマーを使う	44
パッドを叩いてテンポを決める (TAP TEMPO)	44
トレーニング機能を使う	45
自分の演奏を記録する	48
演奏を記録する	48
記録した演奏を再生する	48
記録した演奏を消去する	48
内蔵曲と一緒に記録する	49
別売品を取り付ける	50
ハイハットコントローラー HH65 (別売品) を キックペダルとして使う	50
DTX700に別売品のパッド (シンバルパッドPCY135) を増設する	50
DTX700をコンピューターに接続する	52
コンピューターに接続する	52
コンピューターを活用した音楽制作	53
Cubaseをリモートコントロールする	54
メッセージ一覧	55
困ったときは	56
仕様	57
索引	58
DTX700の機能一覧表	59
(※機能の詳細はリファレンスマニュアルでご覧になれます)	
同梱ディスクについて	62
保証とアフターサービス	63

最初にやっていただくこと

お客様にやっていただくこと

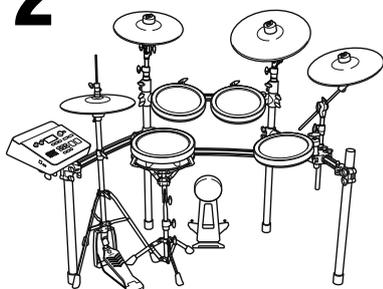
1



箱を開けて中身を確認する

- ドラムトリガーモジュール：DTX700(本製品)
- ラック：RS700、RS500 など
- パッドセット：DTP750C、DTP750P、DTP700C、DTP700P など

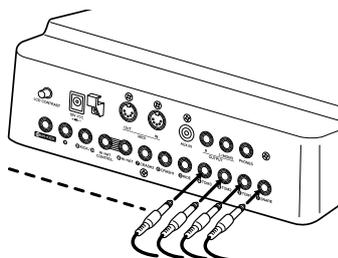
2



組み立てる

- ラックを組み立てる。
→ ラック (RS700、RS500 など) の組立説明書を参照。
- パッド類、および DTX700(本製品) をラックに取り付ける。
→ パッドセット梱包箱の中にある組立説明書 (DTX750K、DTX700K など) を参照。

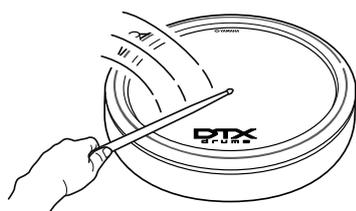
3



接続する

- パッド類と DTX700(本製品) をケーブルでつなぐ。
→ 組立説明書 (DTX750K、DTX700K など) を参照。
- 電源アダプターを本製品 (DTX700) につないで、電源を入れる。
→ 本書 13 ページを参照。

4

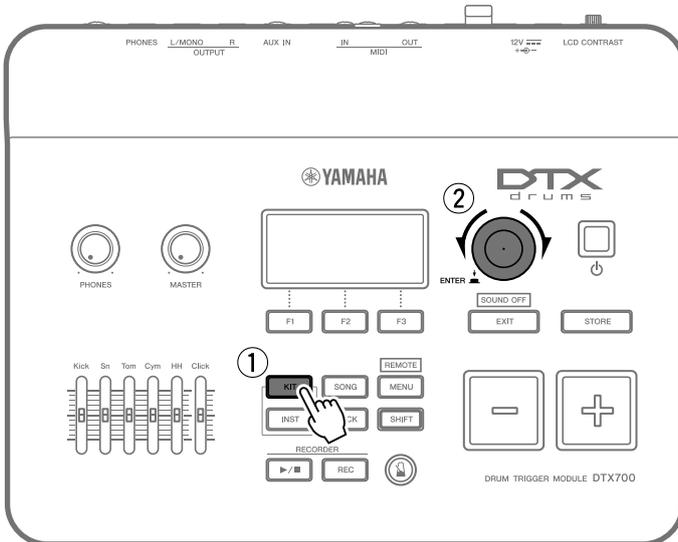


演奏する

- 本書の 8～9 ページを参考に、さっそく叩いてみましょう。
- 基本的な使い方は本書をご覧ください、さらに詳細な説明はリファレンスマニュアル (5 ページ) をご活用ください。

クイックガイド

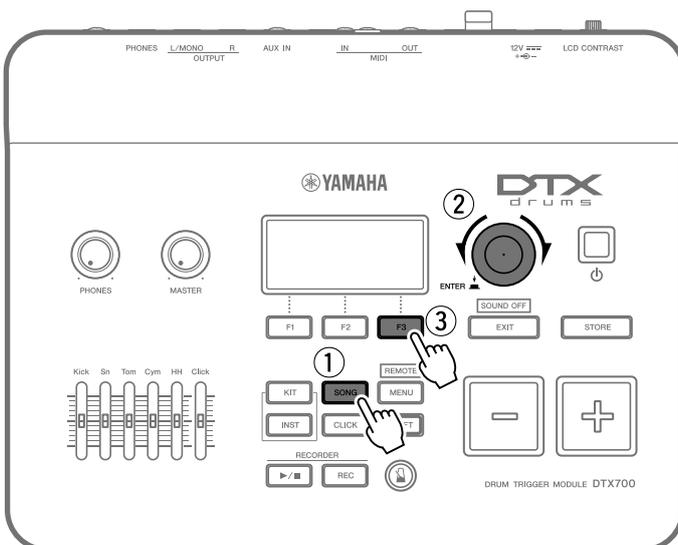
好きな音色を選んで叩きたい (本編 25 ページ)



- ① [KIT] を押します。
- ② ツマミを回して好きな音色を選びます。

パッドに好きな音を割り当てることもできます。(本編 25 ページ)

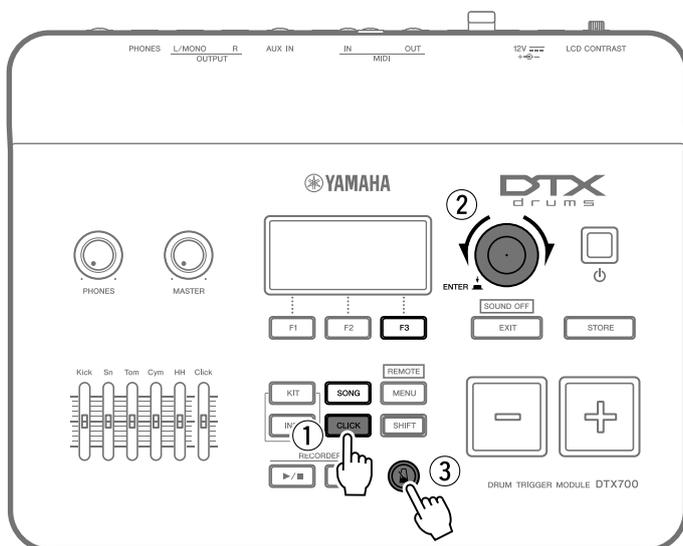
曲に合わせて叩きたい (本編 36 ページ)



- ① [SONG] を押します。
- ② ツマミを回して好きな曲を選びます。
- ③ [F3] を押して曲を再生します。

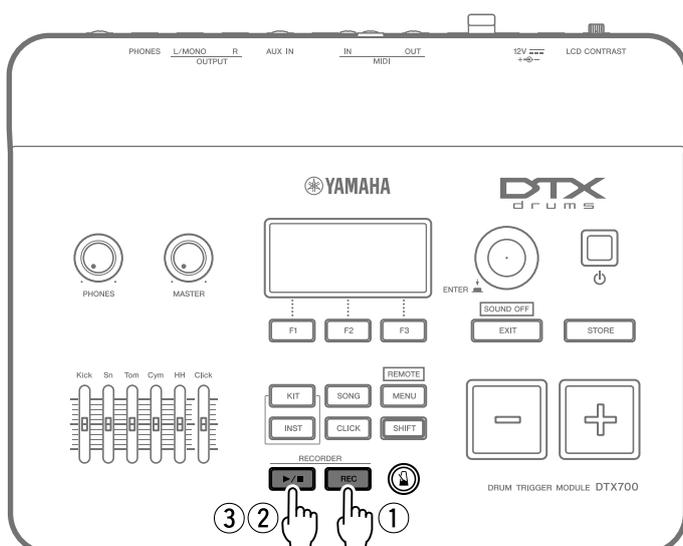
[F2] を押すと内蔵曲のドラム演奏を消音できます。(本編 38 ページ)

メトロノームに合わせて練習したい (本編 41 ページ)



- ① [CLICK] を押します。
- ② ツマミを回して好きなテンポを選びます。
- ③ [] を押してメトロノームをスタートします。

自分の演奏を記録したい (本編 48 ページ)

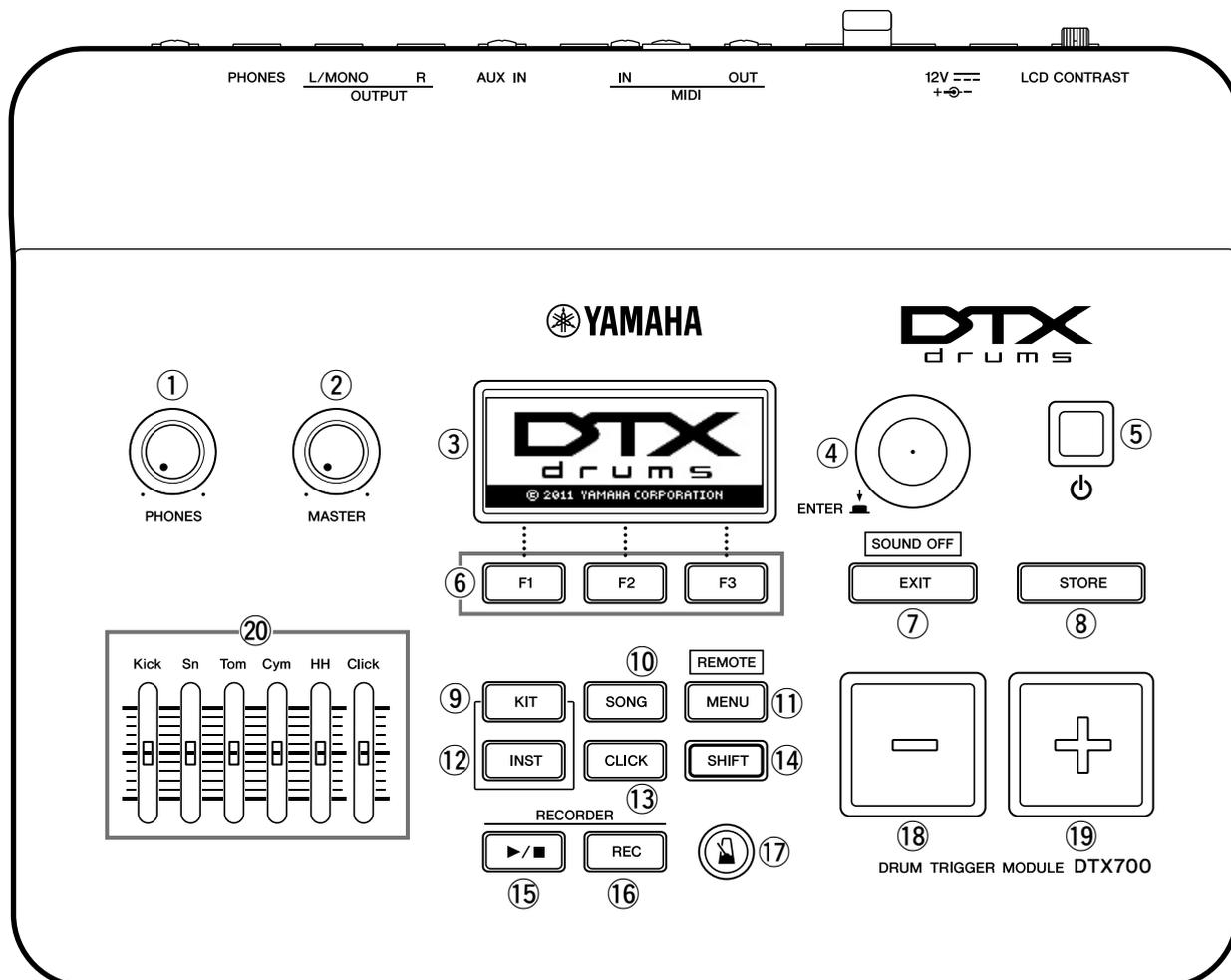


- ① [REC] を押します。
- ② [▶/■] を押して記録をスタートします。
- ③ 演奏が終わったら [▶/■] を押して記録を終了します。

記録した演奏の再生 / 停止をするときは [▶/■] を押します。(本編 48 ページ)

各部の名称と機能

フロントパネル

① [PHONES](ヘッドホンボリューム)ノブ
(13ページ)

ヘッドホンの音量(PHONES端子)を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、反対方向で小さくなります。

② [MASTER](マスターボリューム)ノブ (19ページ)

全体の音量(OUTPUT 端子)を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、反対方向で小さくなります。

③ 液晶ディスプレイ(LCD) (29ページ)

操作していく上で必要な情報やデータが表示されます。

④ ツマミ(押しボタン一体型) (17ページ)

押す/回すの両方の操作ができます。

- ・ 値を確定するときや、データの保存(ストア)を実行するときを使用します。
- ・ LCD内のカーソルを移動させたり、カーソルがある位置の値を変更するときを使用します。

⑤ 電源(スタンバイ/オン)スイッチ (14ページ)

電源のオン/オフスイッチです。

⑥ [F1]~[F3](ファンクション)ボタン (18ページ)

各画面の中にある機能を選ぶときに使用します。

⑦ [EXIT](エグジット)ボタン

設定内容のコピーや保存を中止する場合などに使用します。[SHIFT]ボタンを押しながら[EXIT]ボタンを押すと、現在発音中の音を強制的に止めます(オールサウンドオフ)。音が止まらないときに使用します。

⑧ [STORE](ストア)ボタン (21ページ)

編集したデータや設定を内部メモリーに保存(ストア)します。ボタンが点灯しているときは、保存されていない設定内容があることを示します。

⑨ [KIT](キット)ボタン (25ページ)

キットの選択画面に入ります。

⑩ [SONG](ソング)ボタン (36ページ)

ソングの選択画面に入ります。

⑪ [MENU](メニュー)ボタン (20ページ)

メニューの選択画面に入ります。メニューの選択画面はさらに数ページの設定画面(設定ページと呼びます)で構成されています。また、[SHIFT]を押しながら[MENU]を押すと、Cubaseのリモート機能をオン/オフします。

※本書では、メニューの選択画面について一部の基本的な操作手順のみに限って説明します。すべての機能を知りたいときは、下記のウェブサイトよりリファレンスマニュアル(詳細編、PDFファイル)を入手し、お読みください。

<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

⑫ [INST](インスト)ボタン (30ページ)

インストの選択画面に入ります。

【用語】 インスト

キットを構成している一つ一つの打楽器(スネアドラム、タム、シンバル、バスドラムなど)のことを、ここではインストと呼びます。

⑬ [CLICK](クリック)ボタン (41ページ)

クリック(メトロノーム)の設定画面に入ります。

⑭ [SHIFT](シフト)ボタン

このボタンを押すと、[F1]～[F3]に割り当てられた機能表示が切り替わります。切り替わった機能呼び出すときは、このボタンを押しながら[F1]～[F3]を押します(18ページ)。また、このボタンを押しながら上側に機能名が印刷されたボタンを押すと、その機能呼び出すことができます。

⑮ [▶/■]ボタン (48ページ)

記録した演奏を再生/停止するときに使います。

⑯ [REC]ボタン (48ページ)

演奏を記録する状態に入る/抜けるときに使います。

⑰ [M](メトロノーム)ボタン (41ページ)

クリック(メトロノーム)のスタート/ストップを行いません。

⑱ [-/DEC]ボタン (18ページ)

カーソル位置の値を1ずつ減らします。[SHIFT]ボタンを押しながら[-/DEC]ボタンを押すか、または[-/DEC]を押しながら[+/INC]ボタンを押すと、カーソル位置の値を10ずつ減らします。

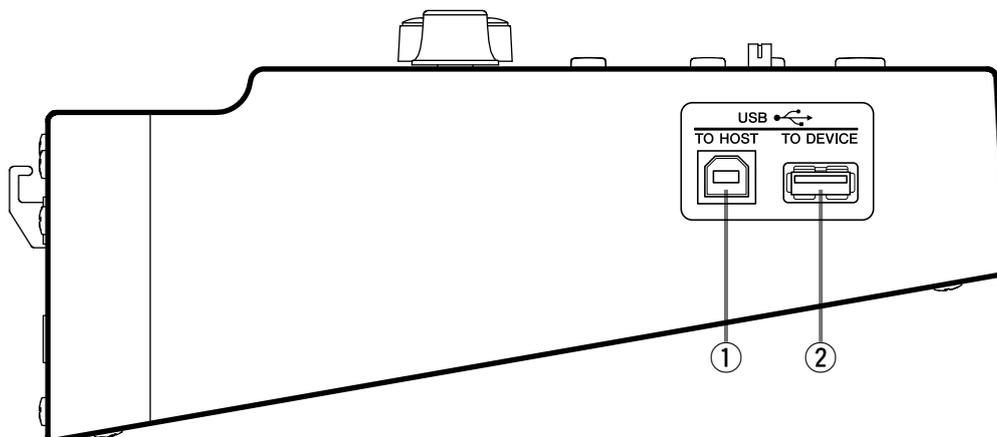
⑲ [+/INC]ボタン (18ページ)

カーソル位置の値を1ずつ増やします。[SHIFT]ボタンを押しながら[+/INC]ボタンを押すか、または[+/INC]を押しながら[-/DEC]ボタンを押すと、カーソル位置の値を10ずつ増やします。

⑳ スライダー (41ページ)

スネアやタムなどの音量やクリックの音量の調節します。

左サイドパネル



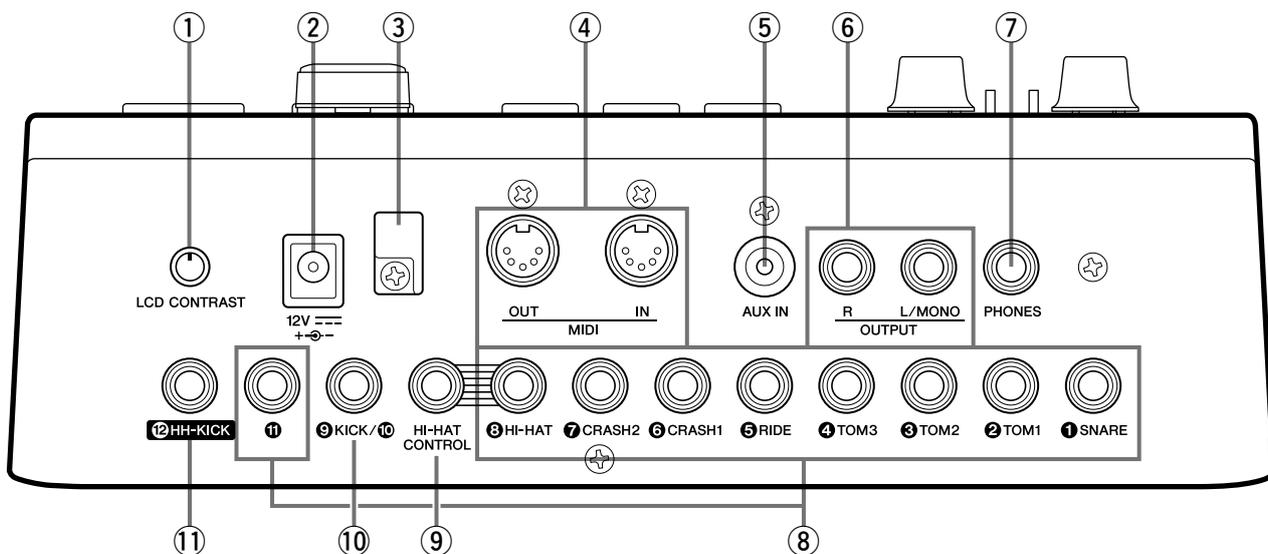
① [USB TO HOST]端子 (52ページ)

本体とコンピューターのUSB端子とをUSBケーブルで接続するために使います。

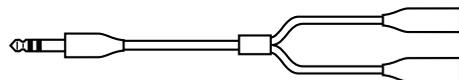
② [USB TO DEVICE]端子 (21ページ)

USB対応の外部記憶装置(フラッシュメモリーなど)を、直接もしくはUSBケーブルを使って接続します。

リアパネル



- ① **[LCD CONTRAST] ノブ** (19ページ)
LCDのコントラストを調節します。
- ② **[12V 電源アダプター] 端子** (13ページ)
付属の電源アダプターを接続します。
- ③ **コードフック** (13ページ)
電源アダプターのコードが抜けないように、このフックでプラグ付近のコードを引っ掛けて固定します。
- ④ **[MIDI IN] (MIDI入力)、
[MIDI OUT] (MIDI出力) 端子** (13ページ)
MIDI IN端子は外部MIDI機器から送信されるMIDIメッセージを受信します。外部MIDI機器から本体の音源部を鳴らしたり、コントロールすることができます。また、MIDI OUT 端子からは本体の演奏情報などをMIDIメッセージとして送信します。
- ⑤ **[AUX IN] (外部入力) 端子** (13ページ)
本体へ外部オーディオ機器からの音声を入力する端子 (ステレオミニジャック) です。携帯用音楽プレーヤーやCDプレーヤーを接続すれば、プレーヤーの音楽に合わせて演奏できます。
- ⑥ **[OUTPUT L/MONO]、[R] 端子** (13ページ)
DTX700のステレオミックス音声をライン出力します。それぞれの端子にモノラルフォーンプラグを使って外部アンプやミキサーなどと接続します。モノラルで出力する場合はL/MONO端子のみを使用します。
- ⑦ **[PHONES] (ヘッドフォン) 端子** (13ページ)
ヘッドフォンを使用するときに接続する端子です。ステレオ標準ジャックです。
- ⑧ **トリガー入力端子 (①SNARE～③HI-HAT、⑪)**
ステレオ出力のパッド (2ゾーン、3ゾーン) に対応しています。モノラル出力のパッドも接続できます。また、これらの端子はパッドコントローラー機能に対応しています。
- ⑨ **HI-HAT CONTROL (ハイハットコントロール) 端子**
ハイハットコントローラー HH65やリアルハイハットパッド RHH135のHI-HAT CONTROLを接続する端子です。
- ⑩ **トリガー入力端子 (⑨KICK/⑩)**
キックパッド KP65などを接続する端子です。モノラル出力のパッドに対応しています。KP65を接続した場合は、KP65背面のインプット端子にモノラルパッドを増設することができます。また、この端子に別売のY字ケーブルを使用すると、2つのモノラル出力のパッドを接続することもできます。
- ⑪ **トリガー入力端子 (⑫HH-KICK)**
別売のハイハットコントローラー HH65を接続する端子です。別売のHH65を増設することにより、キックパッドの代わりとしてキック音を鳴らしたり、ツーバスで演奏できます (50ページ)。



音を出すまでの準備

電源の準備

- 1 本体の電源が切れている（液晶ディスプレイが消えている）ことを確認してください。
- 2 電源アダプターの DC プラグをリアパネルの [12V  + -] 端子にさし込みます。
- 3 電源アダプターのコードをコードフックに巻きつけて固定します。

⚠ 注意

- コードフックに巻きつけるとき、電源アダプターのコードを極端に折り曲げないでください。コードの断線や発火の原因となります。

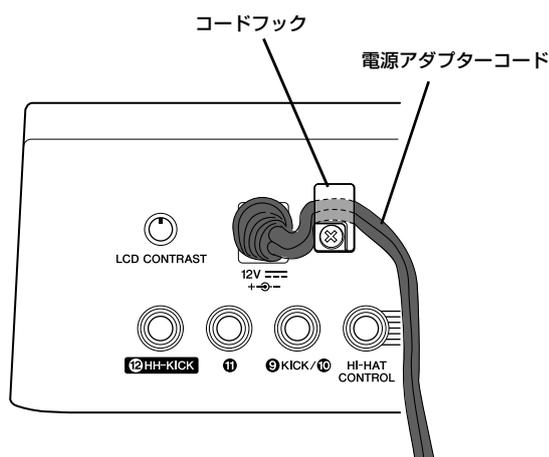
- 4 電源アダプターの AC プラグを家庭用 (AC100V) コンセントにさし込みます。

⚠ 警告

- 電源アダプターは必ず付属のものをお使いください。

⚠ 注意

- 誤ってエアコン用などの200Vのコンセントに接続しないでください。
-  (スタンバイ/オン)スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使わないときは必ず AC プラグをコンセントから抜いてください。



スピーカーやヘッドフォンをつなぐ

DTX700 にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、DTX シリーズ用モニターシステム (MS4ODR など) やヘッドフォンなどを接続してください。

● スピーカーを接続する

[OUTPUT L/MONO]、[R] 端子 (標準モノラルフォンジャック) にスピーカーを接続します。

● ヘッドフォンを接続する

[PHONES] 端子 (標準ステレオフォンジャック) にヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンの音量はフロントパネルの PHONES ノブで調節します。

⚠ 注意

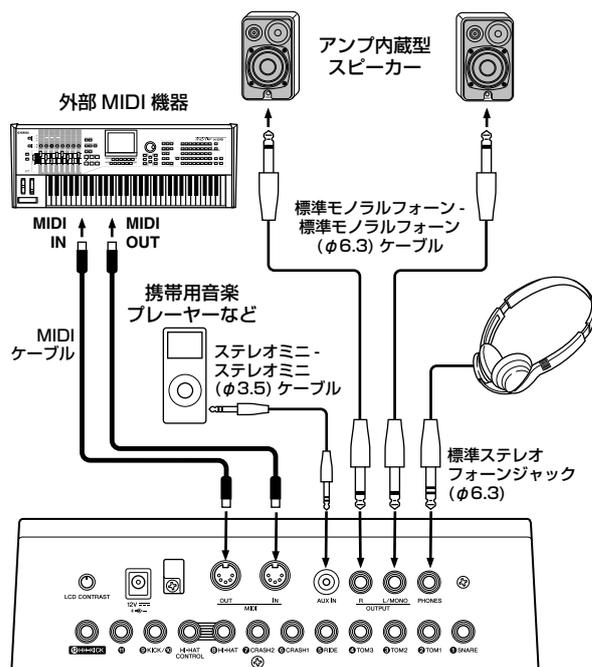
- ヘッドフォンをご使用の場合は、大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因となります。

携帯用音楽プレーヤーなどをつなぐ

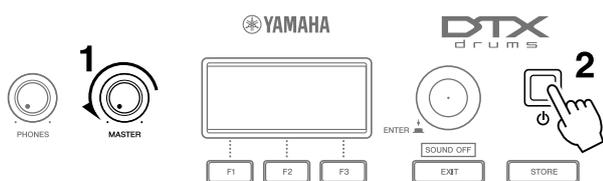
DTX700 の [AUX IN] (外部入力) 端子 (ステレオミニジャック) に携帯用音楽プレーヤーなどを接続することができます。好きな曲にあわせて演奏するときに便利です。

注記

- 接続にはそれぞれの機器の端子形状に適合したプラグを持つケーブルをお使いください。
- 接続の前に、機器のボリュームが音量最小になっていることを確認してください。
- DTX700 との音量バランスは、接続した機器側の音量調節で行なってください。



電源オン



1 [MASTER] ノブを左に回し、本体の音量を最小にします。

2 電源(スタンバイ/オン)スイッチを押します。
LCDにオープニング画面が表示され、その後キット選択画面が表示されます。



3 (接続している場合)アンプ内蔵スピーカーなどの外部機器の電源を入れます。

NOTE

- 電源を切る場合は、先に外部機器の電源を切ってからDTX700の電源を切ってください。

電源オフ

1 電源(スタンバイ/オン)スイッチを押します。
LCDが消灯します。

注記

- 設定を変更した場合、保存せずにDTX700の電源を切ると、設定した内容は消えてしまいます。変更した設定の保存の仕方は21ページをご覧ください。

オートパワーオフ(自動電源オフ)

DTX700は一定の時間に操作しなかったり、外部接続した機器(コンピューターやMIDI機器)との間で通信がなかった場合、自動的に電源がオフになります。これを「オートパワーオフ」といいます。

注記

- 設定した内容がすべて消えてしまうおそれがありますので、オートパワーオフによって電源がオフになる前に、必ずストア(保存)を実行してください。

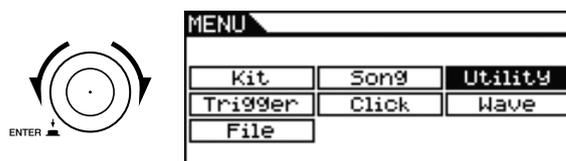
● オートパワーオフの設定

オートパワーオフするまでの時間を設定したり、オートパワーオフをしない設定について説明します。

1 [MENU] を押します。

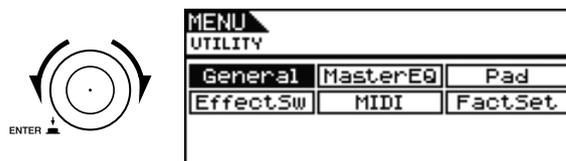


2 ツマミを回して、カーソルを「Utility」に合わせます。



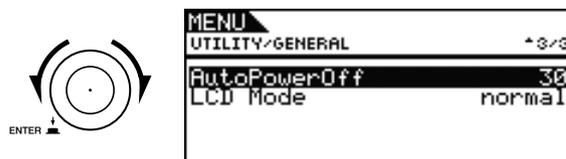
3 ツマミを押します。

4 ツマミを回して、カーソルを「General」に合わせます。



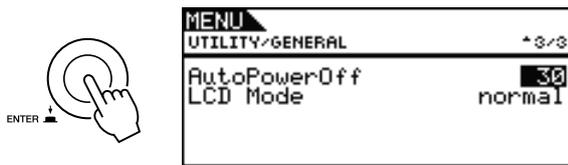
5 ツマミを押します。

6 ツマミを回してカーソルを「AutoPowerOff」に合わせます。

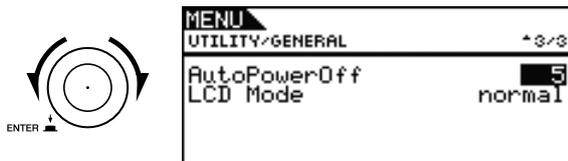


7 ツマミを押します。

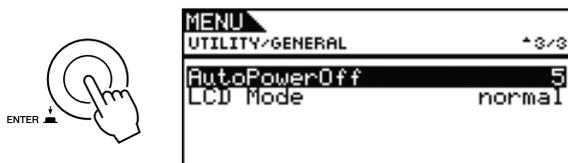
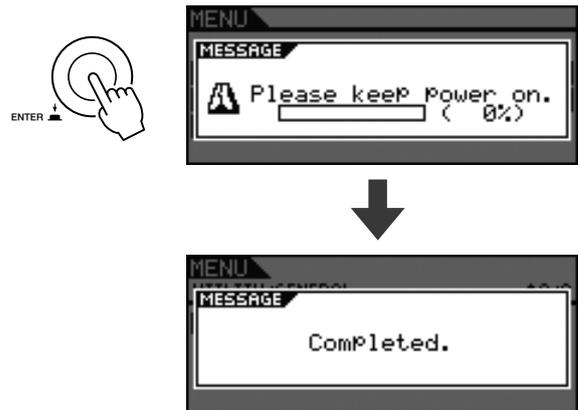
カーソルが右側の値だけに切り替わります。

**8** ツマミを回して、好みの時間を選びます。

値はオートパワーオフするまでの時間(分)を示します。5分、10分、15分、30分、60分、120分で設定できます。また、「Off」を選ぶとオートパワーオフは無効になります。

**9** ツマミを押します。

カーソルが元の状態に戻ります。

**10** [STORE] を押します。**11** ツマミを押して、ストア(保存)を実行します。**NOTE**

- 初期の状態では、オートパワーオフは30分に設定されています。

● **電源オン時にオートパワーオフを無効にする**

電源を入れる際、[▶/■]を押しながら ⏻ (スタンバイ/オン) スイッチを押すと、オートパワーオフが無効 (AutoPowerOff の値が「Off」) になります。

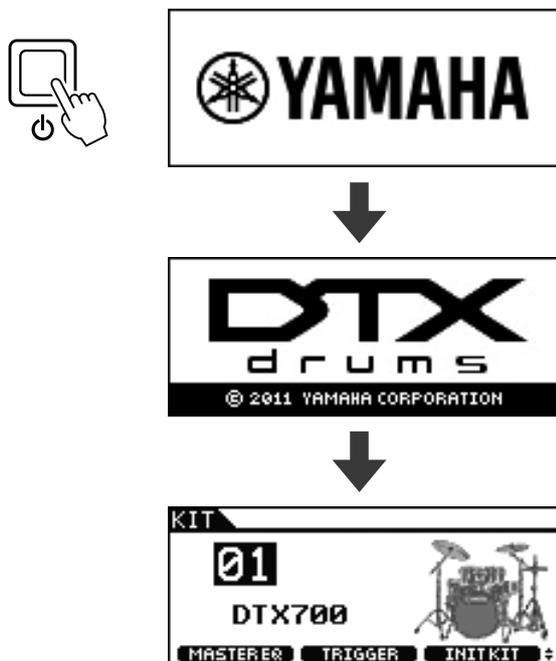


デモソングを聞く

DTX700 にはデモソングが入っています。DTX700 の内蔵音源の豊かな音色を聞いてみましょう。

- 1** 電源(スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

起動画面



- 2** [SONG] を押します。



- 3** [F3] を押します。

デモソングが再生されます。また、再生中は[SONG]が点滅します。



- 4** もう一度[F3]を押すと、デモソングが停止します。

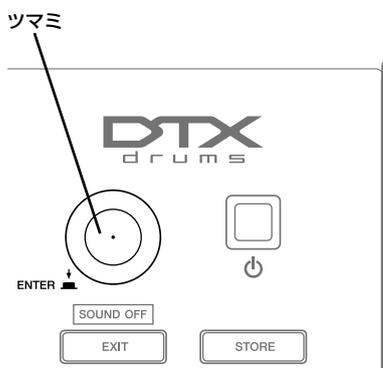


- 5** 違うソングを聞きたいときは、ツマミを回してソングを選び、手順3～4を実行します。



DTX700 の基本操作

ツマミ (押しボタン型)

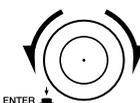


● ツマミを押す



操作を実行したり、値を確定するときに使います。また、カーソル (次で説明します) の種類を切り替えるときにも使います。

● ツマミを回す



値を変更したり、カーソルを動かすときに使います。

カーソル上の値を変える

カーソルは画面内の反転表示です。



ツマミを右か左に回すと、値を変更できます。



カーソルを移動する

画面の中に値が複数あるときは、ツマミを押すとカーソルが反転表示から下線表示に変わります。

(例) [SONG] を押して表示される画面

この画面ではソング番号 **01** とテンポ **J=120** の値を設定できます。

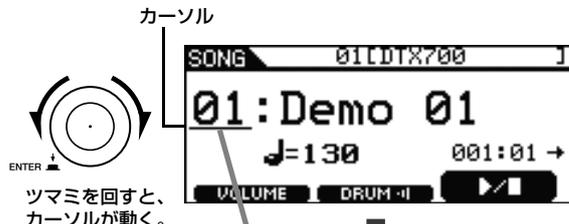


ツマミを押すと、下線表示のカーソルに変わる。



カーソル (下線表示)

ツマミを回すとカーソルが動きます。ツマミを回して設定したい値までカーソルを動かします。



ツマミを回すと、カーソルが動く。

もう一度ツマミを押すと、反転表示のカーソルに戻ります。



ツマミを押すと、反転表示のカーソルに戻ります。

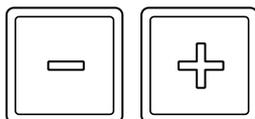
ツマミを右か左に回すと、値を変更することができます。



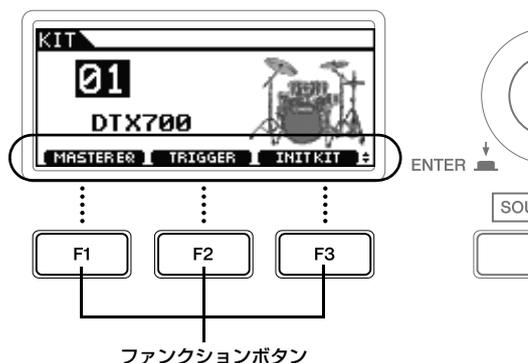
ツマミを右か左に回すと、値を変更することができます。

[- /DEC] / [+ /INC] ボタン

カーソルが置かれている位置の値を増減させることができます。[+ /INC] ボタンを押すたびに値が 1 ずつ増加し、[- /DEC] ボタンを押すたびに値が 1 ずつ減少します。どちらのボタンも押し続けることによって値が連続的に変化します。設定範囲の大きい値を変更する場合、[SHIFT] ボタンを押しながら [+ /INC] ボタンを押すか、[+ /INC] ボタンを押しながら [- /DEC] ボタンを押すことで、値を 10 ずつ増加させることができます。逆に [SHIFT] ボタンを押しながら [- /DEC] ボタンを押すか、[- /DEC] ボタンを押しながら [+ /INC] ボタンを押すことで、値を 10 ずつ減らすことができます。



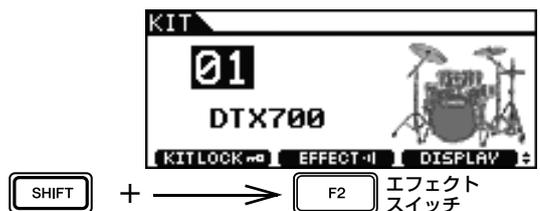
[F1] ~ [F3](ファンクション) ボタン



[F1] ~ [F3](ファンクション) の機能は、各画面の下部に白抜き文字で反転表示されます。また、画面右下に ◀ のマークが表示されているときに [SHIFT] を押しと、機能が切り替わります。

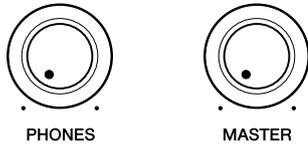


[SHIFT] を押しと表示される機能は、[SHIFT] を押しながら [F1] ~ [F3](ファンクション) を押しして実行します。



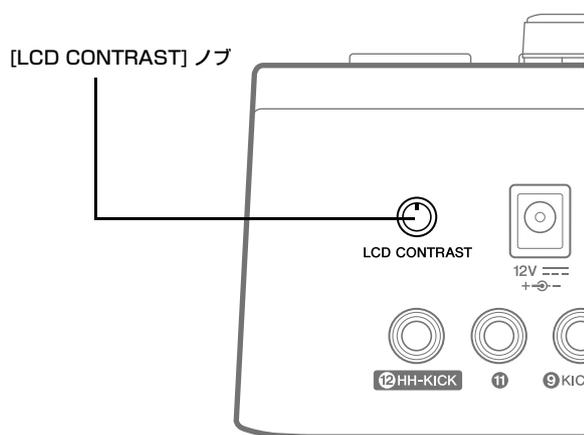
音量の調節

[OUTPUT L/MONO]、[R] 端子の音量は [MASTER] ノブを回して調節します。また、リアパネルの [PHONES] 端子につないだヘッドフォンの音量は [PHONES] ノブを回して調節します。時計方向に回すと音量が大きくなり、反対方向で小さくなります。



LCD のコントラスト調節

LCD のコントラストは、リアパネルにある [LCD CONTRAST] ノブを回して調節します。



[MENU] を押して呼び出せる画面について

DTX700 には、多彩かつ高度な設定ができるメニュー画面が用意されています。メニュー画面は [MENU] を押して呼び出すことができます。本書では、一部のメニュー画面のみ説明していますので、すべてのメニュー画面の説明をご覧になりたい方は、以下 URL よりリファレンスマニュアルをダウンロードしてください。

<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

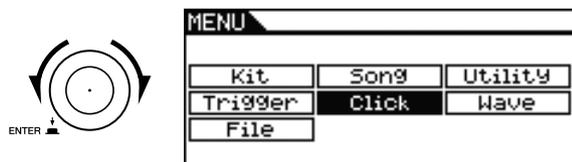
● メニュー画面のカーソル操作

カーソルの表示の仕方や操作方法が通常の画面とは異なります。

・メニュー選択画面

MENU		
Kit	Song	Utility
Trigger	Click	Wave
File		

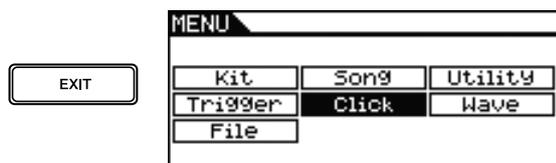
つまみを回すと、カーソル（反転部分）が移動します。



つまみを押すと、1つ下のメニューに移動します。



[EXIT] を押すと、1つ上のメニューに戻ります。



NOTE

- 本書では、メニュー画面のカーソル操作のことを [MENU] → 「KIT」 → 「COMMON」 のように説明します。

・パラメーター選択画面

MENU	
KIT/COMMON	
Volume	100
Tempo	130
TrgSetupLink	off
Name	[DTX700]
Icon	Acoustic

つまみを回すと、カーソル（反転部分）が上下に移動します。



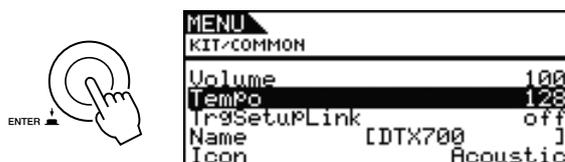
つまみを押すと、値の部分だけにカーソル（反転部分）が移動します。



値の部分だけにカーソルが当たった状態でつまみを回すと、値が変化します。



もう一度つまみを押すと、カーソルが元の状態に戻ります。



設定の保存 (ストア)

DTX700 の設定を変更すると、[STORE] が点灯します。[STORE] を押して DTX700 の設定を保存することを「ストア」と呼びます。ストアは以下の手順で行なってください。

1 [STORE] が点灯していることを確認します。



2 [STORE] を押します。

ストア (保存) を実行する確認を求める画面が表示されます。

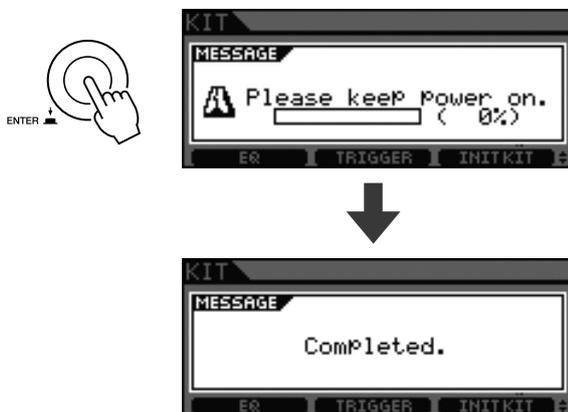


NOTE

- 保存をしないで直前の画面に戻りたい場合は、[EXIT] を押します。

3 ツマミを押してストア (保存) を実行します。

設定した内容が DTX700 に保存され、[STORE] は消灯します。



注記

- 設定を変更した場合、保存せずに DTX700 の電源を切ると、設定した内容は消えてしまいます。

USB 記憶装置 (デバイス) を接続する

USB 記憶装置をサイドパネルの USB TO DEVICE 端子に接続します。

● USB TO DEVICE 端子のご使用上の注意

DTX700 本体には USB TO DEVICE 端子があります。USB TO DEVICE 端子に USB 機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

注記

- USB ケーブルで接続する場合、3メートル未満のケーブルをご使用ください。

NOTE

- USB 機器の取り扱いについては、お使いの USB 機器の取扱説明書もご覧ください。

使用できる USB 機器

USB 対応の記憶装置 (フラッシュメモリーなど)

動作確認済みの USB 機器については、ご購入の前にインターネット上の下記 URL でご確認ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/drum/ed/>

NOTE

- 上記以外の USB 機器 (マウス、コンピューターのキーボードなど) は、接続しても使えません。

USB 機器の接続

USB TO DEVICE 端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。本体は USB1.1 に対応していますが、USB2.0 の機器でも使用できます。ただし転送スピードは USB1.1 相当になりますので、ご了承ください。

NOTE

- DTX700 に USB3.0 のケーブルを接続することはできません。

● USB 記憶装置の取り扱いについて

DTX700 本体に USB 記憶装置を接続すると、DTX700 本体で制作したデータを USB 記憶装置に保存 (セーブ) したり、USB 記憶装置に保存されたデータを DTX700 へ読み込み (ロード) できます。

USB 記憶装置の初期化

USB 記憶装置の中には、DTX700 本体で使用する前に初期化が必要なものがあります。USB 記憶装置の初期化の方法については、別冊のリファレンスマニュアル (PDF) をご覧ください。

注記

- 初期化を実行すると、その USB 記憶装置の中身は消去されます。必要なデータが入っていないことを確認してから初期化してください。

誤消去防止

USB 記憶装置には誤ってデータを消してしまわないようにするため、データの書き込み保護ができるものがあります。大切なデータが入っている場合は、データの書き込み保護を有効にして書き込みができないようにしてください。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いの USB 記憶装置のデータの書き込み保護が解除されていることをご確認ください。

注記

- USB 記憶装置の頻繁な電源のオン/オフ(接続したUSB記憶装置がセルフパワー機器の場合)や USB ケーブルの抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。
- USB 記憶装置にデータを保存中、または USB 記憶装置からデータを読み込み中に、USB TO DEVICE 端子から USB 記憶装置をはずしたり、双方の電源を切ったりしないでください。楽器本体 / USB 記憶装置のデータが壊れたりするおそれがあります。

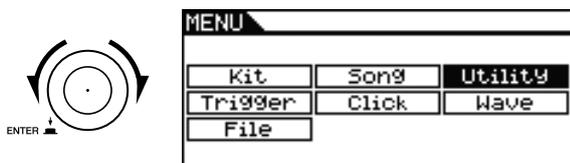
本体の設定を初期の状態に戻す (ファクトリーセット)

DTX700 には、本体の設定を初期の状態に戻すファクトリーセットという機能があります。DTX700 では、はじめからさまざまなキット、インスト、ソングなどが設定されています。ファクトリーセットを実行すれば、これらを誤って書き換えてしまった場合でも、本体の設定を初期の状態に戻すことができます。

1 [MENU] を押します。

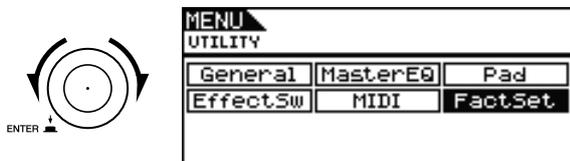


2 ツマミを回して、カーソルを「Utility」に合わせます。

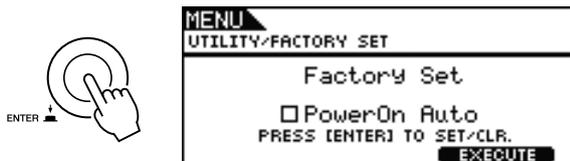


3 ツマミを押します。

4 ツマミを回して、カーソルを「FactSet」に合わせます。

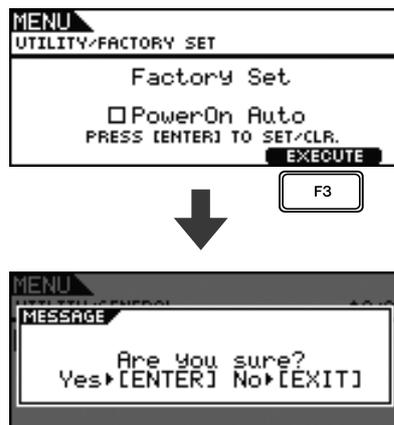


5 ツマミを押します。



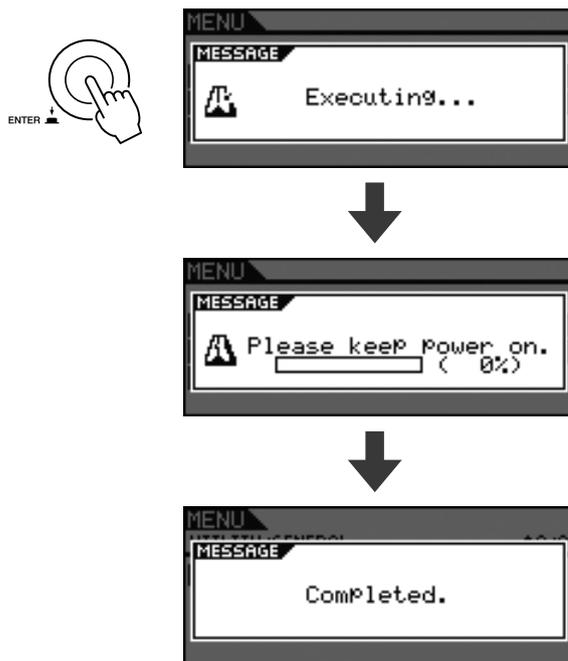
6 [F3] を押します。

ファクトリーセットの実行を確認する画面が表示されます。



ファクトリーセットをやめるときは、[EXIT] を押すと直前の画面に戻ります。

7 ツマミを押して、ファクトリーセットを実行します。



注記

- ファクトリーセットを実行すると、設定したすべてのデータが消え、購入前の初期の状態に戻ります。大切なデータは、ファクトリーセットの実行前に USB 記憶装置などに保存してください。詳細は別冊のリファレンスマニュアル (PDF) をご覧ください。

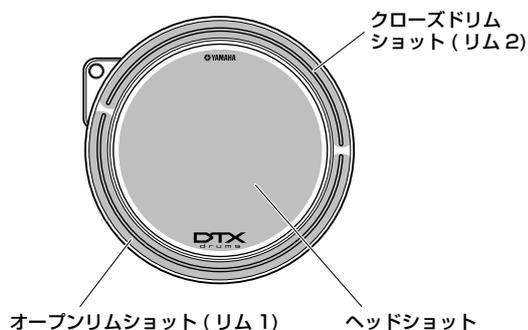
NOTE

- 手順6でツマミを押して「PowerOn Auto」にチェックマークを入れてから手順7を実行すると、電源オン時に毎回、ファクトリーセットが実行されます。

ドラムパッドの叩き方

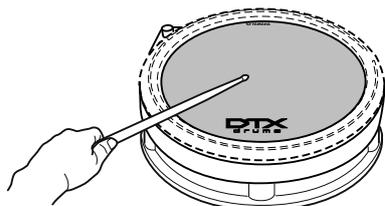
スネア/タム

XP100SDのような3ゾーンパッドを使用すれば、アコースティックのスネアドラムと同じように3種類(ヘッド、オープンリム、クローズドリム)の叩き方ができます。



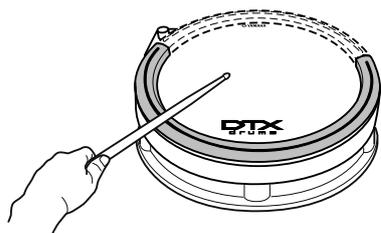
● ヘッドショット

ヘッドを叩きます。



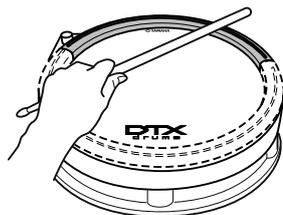
● オープンリムショット

オープン側のリムを叩きます。リムショットはスネアだけでなく、タムでも使えます。



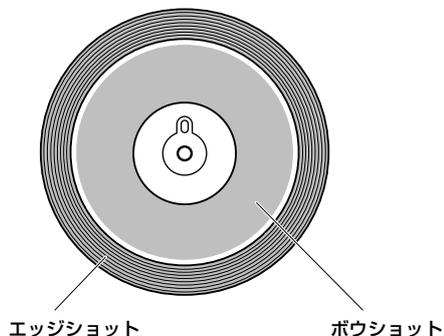
● クローズドリムショット(クロススティック)

クローズド側のリムを叩きます。



ハイハット

RHH135のような2ゾーンパッドを使用すれば、アコースティックのハイハットシンバルと同じように演奏できます。

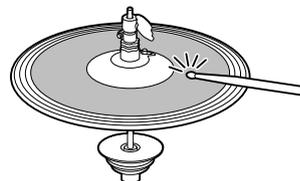


● オープン/クローズ

ハイハットスタンドのペダルの踏み具合により、オープンからクローズまで音色が変化します。ペダルを踏み込んで鳴らすフットクローズもできます。ハイハットをクローズの状態からさらにペダルを踏み込んで叩くと、より締まった音が鳴ります。

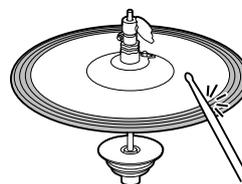
● ボウショット

ハイハットのカップとエッジの間地点を叩きます。



● エッジショット

ハイハットの外周(端)を叩きます。

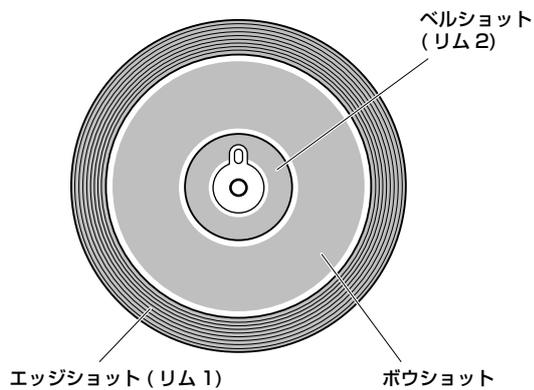


● ハイハットスプラッシュ

ハイハットスタンドのペダルを瞬間的に踏んですぐ放します。

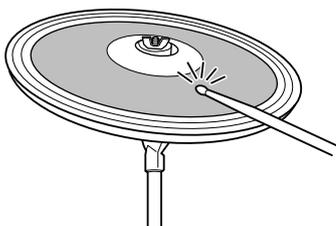
シンバル

シンバル PCY135 のような 3 ゾーンパッドを使用すれば、アコースティックのライドシンバルと同じように演奏できます。



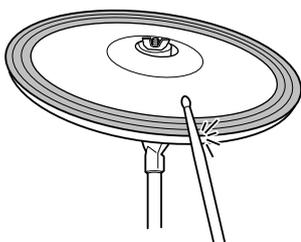
● ボウショット

シンバルのカップとエッジの間地点を叩きます。



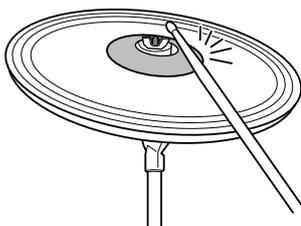
● エッジショット

シンバルの外周 (端) を叩きます。



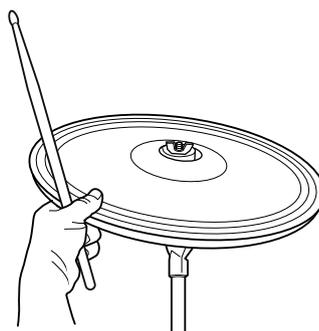
● ベルショット

カップの部分叩きます。



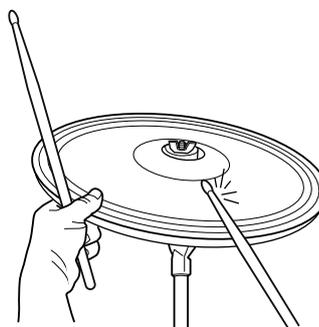
● チョーク奏法

叩いたシンバルのエッジ付近を手でつかむと音が止まります。



● ミュート奏法

シンバルのエッジをつかんだ状態で叩きます。音色が変化します。



いろいろなキットを使って演奏する

ドラムセットやパーカッションセットのように、打楽器をひとまとめにしたものを「キット」と呼びます。DTX700はキットを選ぶことで、いろいろなドラムやパーカッションの音を鳴らすことができます。



ドラムセット



パーカッションセット

キットを切り替える

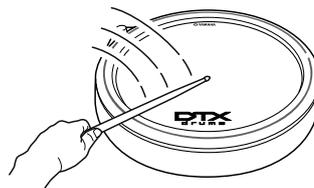
1 [KIT] を押します。



2 ツマミを回して、お好みのキットを選びます。



3 パッドを叩いてみましょう。



NOTE

- 手順2の操作を行なうと、[STORE] が点灯します。このときストア（保存）を実行すると、キットを選んだ状態が保存されます。次回電源を入れたときには、選んだキットが最初に表示されるようになります。

ドラムセット全体の感度設定を切り替える

電子ドラムはパッド 1 つ 1 つの感度を設定できますが、演奏する前に毎回設定するのは大変ですので、DTX700 ではすべてのパッドの感度の設定を一括で記憶しています。これを「トリガーセットアップ」と呼びます。

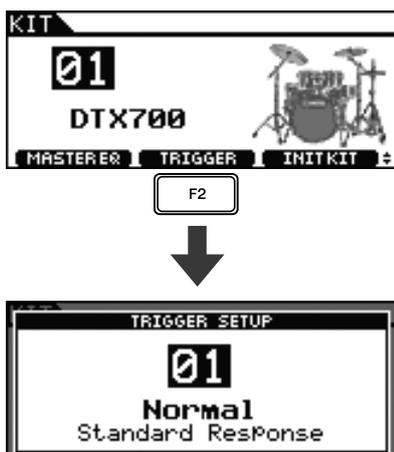
DTX700 には数種類の最適なトリガーセットアップが用意されています。お手持ちのセットにあわせてトリガーセットアップを選びましょう。

1 [KIT] を押します。



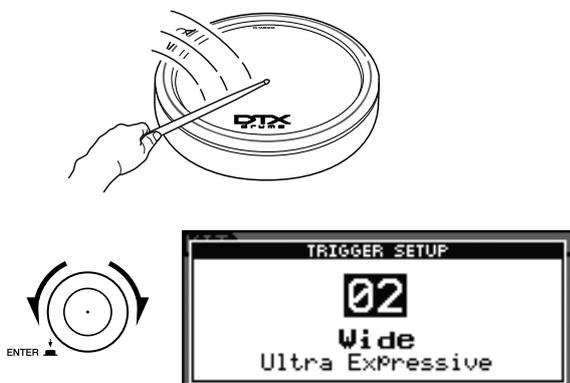
2 [F2] を押します。

画面上には「TRIGGER」（トリガーセットアップ）と表示されています。



3 ツマミを回して、好みの設定を選びます。

パッドを叩きながらつまみを回すと、感度の違いが確認しやすくなります。



4 好みの設定が決まったら、[EXIT] を押して設定画面から抜けます。

元の画面（キット選択画面）に戻ります。

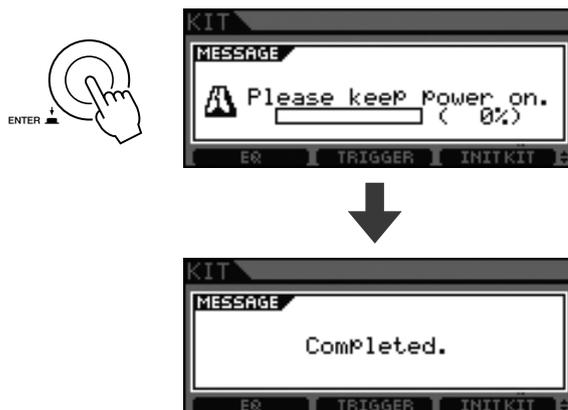


5 [STORE] を押します。



保存をやめるときは、[EXIT] を押すと元の画面に戻ります。

6 ツマミを押して、保存を実行します。



音質を調整する

DTX700 の音質を手軽に調整することができます。



● プリセット EQ を選ぶ

プリセット EQ とは、お好みに合わせて最適な音質になるようにあらかじめ調整した設定のことです。プリセット EQ を呼び出すだけで音質を手軽に変えることができます。

NOTE

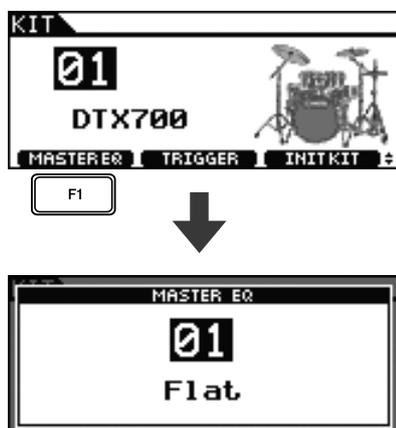
- 本体に収録されているプリセット EQ については、別冊のデータリストをご覧ください。

1 [KIT] を押します。



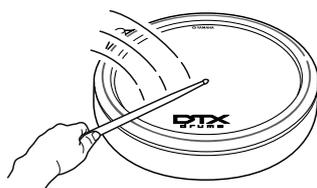
2 [F1] を押します。

画面上には「MASTER EQ」(マスター EQ)と表示されています。



3 ツマミを回して、好みの設定を選びます。

パッドを叩きながらつまみを回すと、音質の違いが確認しやすくなります。



4 好みの設定が決まったら、[EXIT] を押して設定画面から抜けます。

元の画面(キット選択画面)に戻ります。

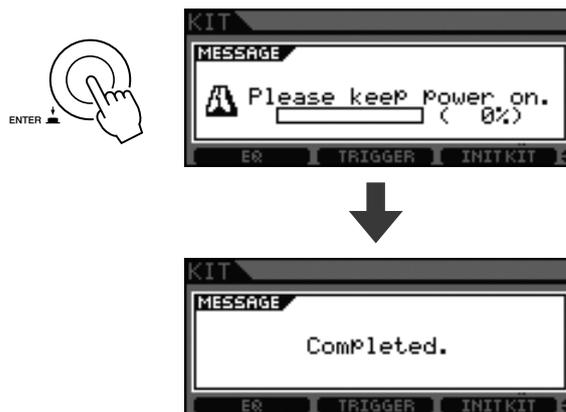


5 [STORE] を押します。



保存をやめるときは、[EXIT] を押すと元の画面に戻ります。

6 ツマミを押して、保存を実行します。



NOTE

- ここで設定した内容は、キットを切り替えても変わりません。

音響効果（リバーブなど）をオフにする

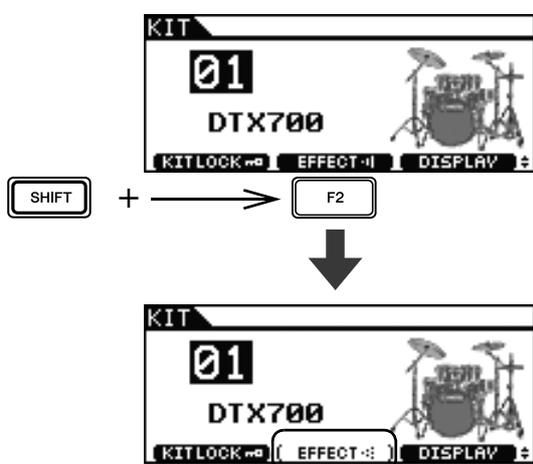
DTX700 は元々、各キットに音響効果（リバーブなど）をかけていますが、音響効果をオフにすることもできます。

1 [KIT] を押します。



2 [SHIFT] を押しながら [F2] を押します。

画面上の **EFFECT:01** が反転表示 (**EFFECT:01**) されます。



NOTE

• もう一度手順 2 を行なうと、元に戻すことができます。

キットを初期化する

設定を変更したキットは購入時の状態に戻すことができます。キットを元の状態に戻したいときは初期化を行ないます。

1 [KIT] を押します。



2 ツマミを回して、初期化したいキットを選びます。

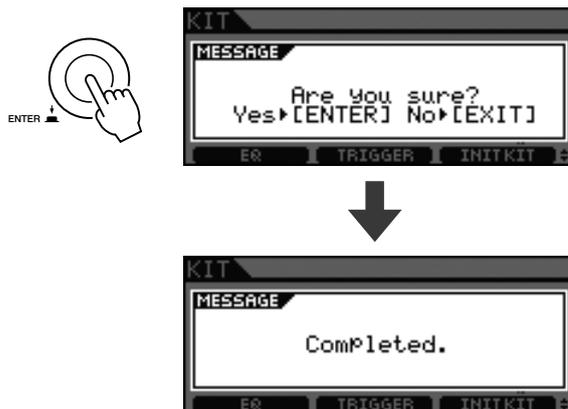


3 [F3] を押します。



初期化をやめるときは、[EXIT] を押すと元の画面に戻ります。

4 ツマミを押して、初期化を実行します。

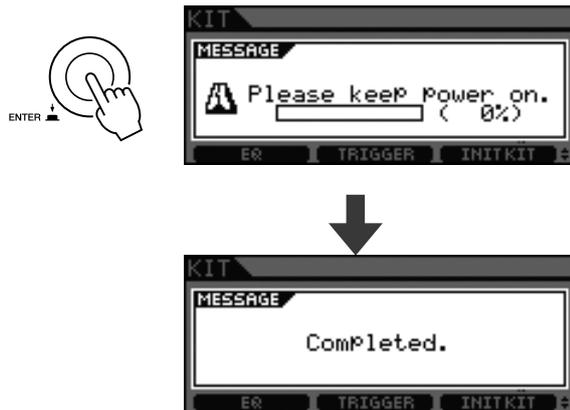


5 [STORE] を押します。



設定の保存をやめるときは、[EXIT] を押すと元の画面に戻ります。

6 ツマミを押して、保存を実行します。



液晶ディスプレイ (LCD) 表示を切り替える

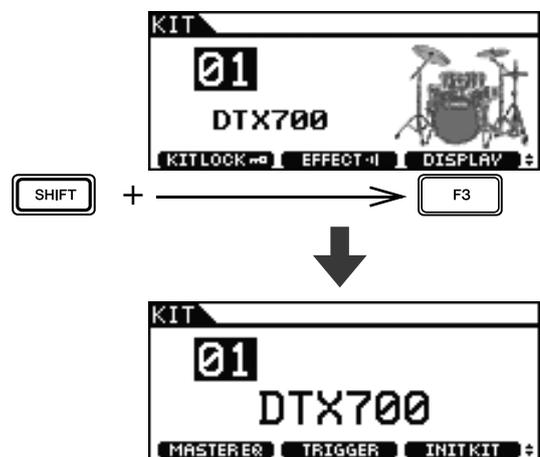
通常 LCD にはキット名とイラストが表示されていますが、キット名の表示のみに切り替えることもできます。

1 [KIT] を押します。



2 [SHIFT] を押しながら、[F3] を押します。

キット名だけが表示されます。



NOTE

- 元に戻りたいときは、もう一度 [SHIFT] を押しながら、[F3] を押します。

自分だけのキットを作る

DTX700 では、パッドごとに好きな音色を選ぶことができます。また、好きな音色を選び終わったら、その設定を保存することもできます。

音色 (インスト) を選ぶ

【用語】 インスト

キットを構成している一つ一つの打楽器 (スネアドラム、タム、シンバル、バスドラムなど) のことを、ここではインストと呼びます。

1 [KIT] を押します。



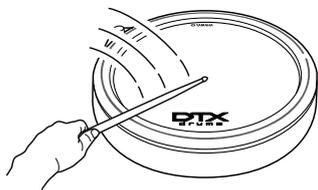
2 ツマミを回してお好みのキットを選びます。



3 [INST] を押します。



4 音色を変えたいパッドを叩きます。



5 ツマミを回して、お好みの音色を選びます。



NOTE

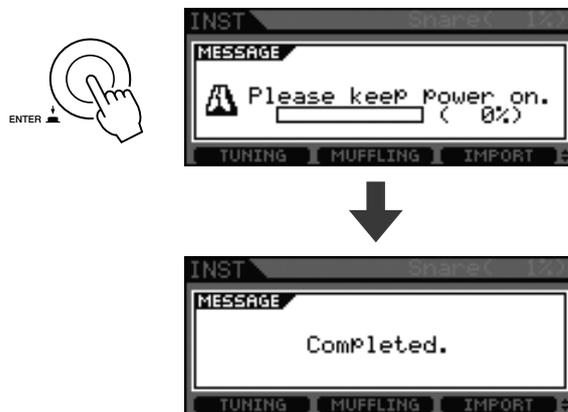
- インストのカテゴリーおよび、インスト番号については、付属のデータリストをご覧ください。

6 音色が決まったら、[STORE] を押します。



設定の保存をやめるときは、[EXIT] を押します。元の画面に戻ります。

7 ツマミを押して、保存を実行します。



NOTE

- 音色を変えて保存した後も、キットの初期化 (28 ページ) を行なえば、キットを初期の状態に戻すことができます。

インストの音を調整する

1 [KIT] を押します。



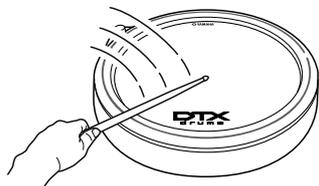
2 ツマミを回してお好みのキットを選びます。



3 [INST] を押します。

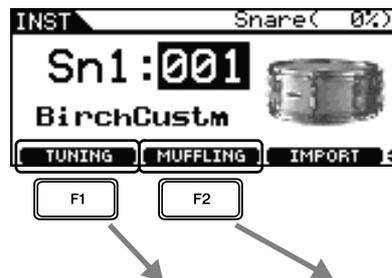


4 音を調整したいパッドを叩きます。



5 [F1] または [F2] を押します。

画面に表示される機能は、インストの種類によって異なります。それぞれの機能については以下の表でご確認ください。



インストの種類	[F1]	[F2]
Kick (キック)		
Sn1 (スネア1)	TUNING	MUFLING
Sn2 (スネア2)		
Tom1 (タム1)		
Tom2 (タム2)		
Cym (シンバル)	SIZE	SUSTAIN
HH (ハイハット)	SIZE	CLUTCH
Latn (ラテン)	TUNING	DECAY
Asia (アジア)		
AfAr (アフリカ)		
Orch (オーケストラ)		
EIPc (電子パーカッション)		
EFX (効果音)		
Mldy (メロディー音)		
Wave (オーディオデータ)		

機能の説明

- **TUNING(チューニング)**
チューニングを調整します。
- **SIZE(サイズ)**
シンバルのサイズ(直径)が変わる効果が得られます。
- **MUFLING(マフリング)**
マフリングのかかり具合を調整します。
- **SUSTAIN(サステイン)**
サステインを調整します。
- **CLUTCH(クラッチ)**
ハイハットクラッチの高さ位置(トップ/ハイハットの高さ位置)を調整します。
- **DECAY(ディケイ)**
ディケイを調整します。

6 ツマミを回して、お好みの音に調整します。

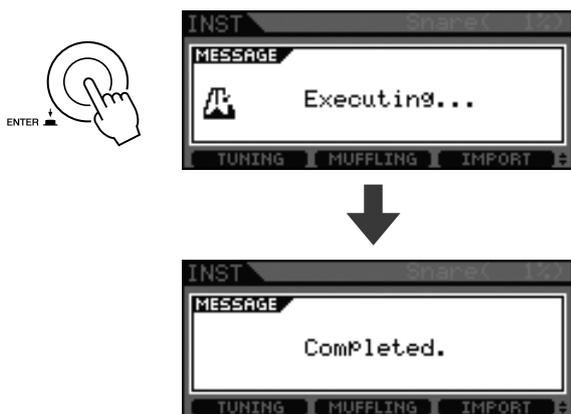


- 7 調整が終わったら、[STORE] を押して設定を保存します。



設定の保存をやめるときは、[EXIT] を押します。元の画面に戻ります。

- 8 ツマミを押し、保存を実行します。



NOTE

- 音色を調整して保存した後でも、キットの初期化 (28 ページ) を行なえば、購入時のキットに戻すことができます。

ツーバス (ツインバス) で演奏する

この機能を有効にすると、HI-HAT CONTROL 端子に接続したハイハットコントローラー (RHH135/HH65) を踏んだときにバスドラムの音を鳴らすことができるので、気軽にツーバスでの演奏を楽しめます。

- [KIT] を押し、つまみを回してお好みのキットを選びます。
- [INST] を押し、トリガー入力端子 ⑨ KICK/⑩ に接続したペダルを 1 回踏みます。
画面右上に「Kick」と表示されます。
- [SHIFT] を押しながら [F2] (DBL BASS) を押します。



NOTE

- この機能を有効にすると、HI-HAT CONTROL 端子に接続したハイハットコントローラーからハイハットオープン/クローズが操作できなくなります。

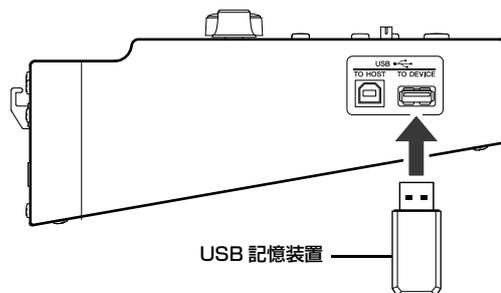
パッドにオーディオファイルを割り当てる

- 1 コンピューター接続した USB 記憶装置にお気に入りのオーディオファイルを保存します。

NOTE

- オーディオファイルは USB 記憶装置の一番上の階層 (ルートディレクトリー) に保存してください。
- DTX700 が取り扱うことができるオーディオファイルの形式は、WAV および AIFF です。
- DTX700 は 16 ビットのオーディオファイルのみ取り扱うことができます。
- 16 ビット以外のオーディオファイルをインポートしたい場合、付属の DAW ソフトウェアなどでビット数の変換を行なってください。ビット数の変換の方法については DAW ソフトウェアなどに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 取り扱える 1 ファイルの最大の長さは約 23 秒 (44.1kHz/16 ビットの場合) です。
- 上記はすべてのオーディオファイルの読み込みを保証するものではありません。

- 2 USB 記憶装置をコンピューターからはずし、DTX700 の USB TO DEVICE 端子に接続します。



- 3 [KIT] を押します。



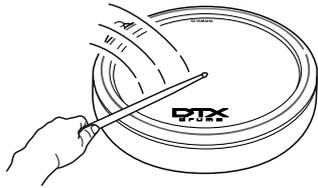
- 4 ツマミを回してお好みのキットを選びます。



- 5 [INST] を押します。



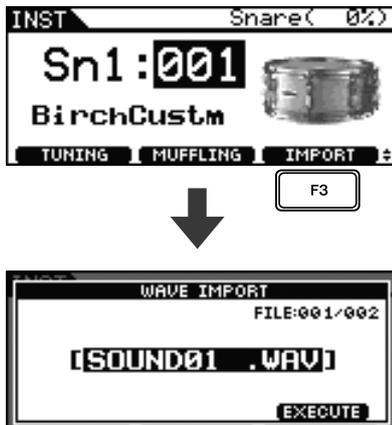
- 6 オーディオファイルを割り当てたいパッドを叩きます。



NOTE

- 割り当てたいパッドが2ゾーンや3ゾーンの場合、すべてのゾーンに同じオーディオファイルが割り当てられます。

- 7 [F3] を押します。



- 8 ツマミを回して、取り込みたいファイルを選びます。



- 9 [F3] を押します。



取り込みをやめるときは、[EXIT] を押します。元の画面に戻ります。

- 10 ツマミを押して、取り込みを実行します。



NOTE

- 取り込みを実行すると、自動的にストア (保存) も実行されます。

作ったキットに好きな名前をつける

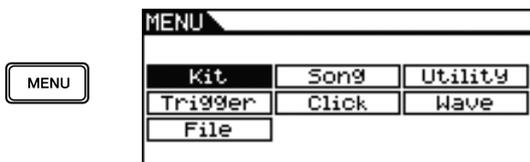
1 [KIT] を押します。



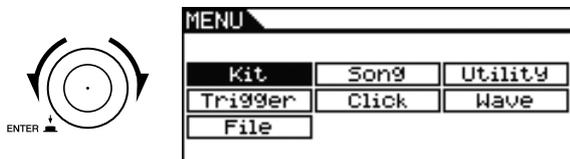
2 ツマミを回して、作ったキットを選びます。



3 [MENU] を押します。

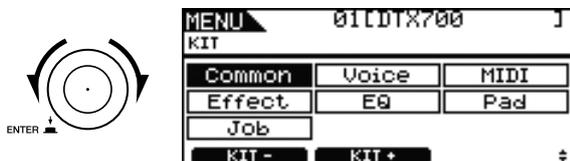


4 ツマミを回して「Kit」を選びます。



5 ツマミを押します。

6 ツマミを回して「Common」を選びます。



7 ツマミを押します。

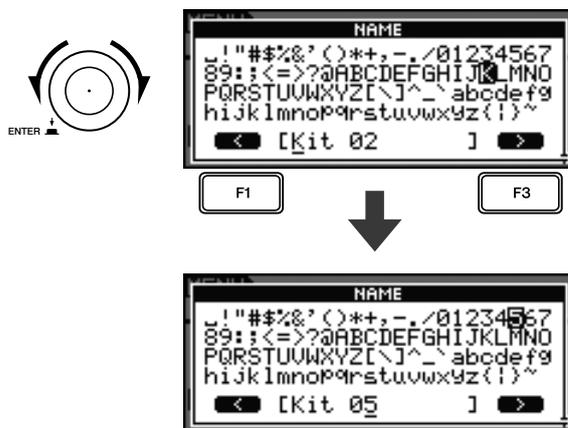
8 ツマミを回して「Name」を選びます。



9 ツマミを押します。

10好きな名前を入力します。

最大 12 文字までの長さでキット名を設定できます。
[F1]/[F3] で変更したい文字に下線表示のカーソルを
合わせ、ツマミを回すか [- /DEC]/[+ /INC] を押し
て文字を選びます。

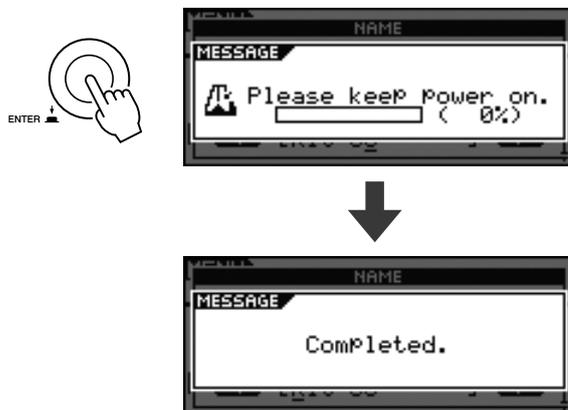


11 入力が済んだら、[STORE] を押します。



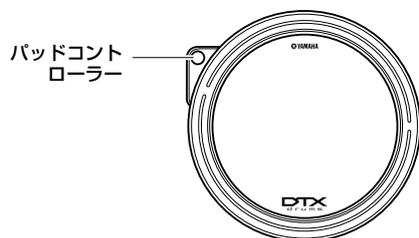
設定の保存をやめるときは、[EXIT] を押します。元の
画面に戻ります。

12 ツマミを押して、保存を実行します。



スナッピー（響き線）の調整をする

スネアパッド(トリガー入力端子①SNAREに接続されているパッド)のスナッピー（響き線）を調整することができます。パッドコントローラー付きのパッドが接続されている場合は、パッドコントローラーを回すだけでスナッピーを調整できます。



ここでは、パッドコントローラーが付いていないパッドが接続されている場合の、スナッピーの調整方法について説明します。

1 [KIT] を押します。



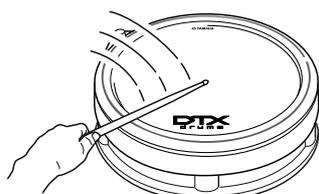
2 ツマミを回してお好みのキットを選びます。



3 [INST] を押します。



4 スネアパッド(①SNARE端子に接続されたパッド)を叩きます。



5 [SHIFT] を押しながら [F2] を押します。



6 ツマミを回して、スナッピーの調整をします。

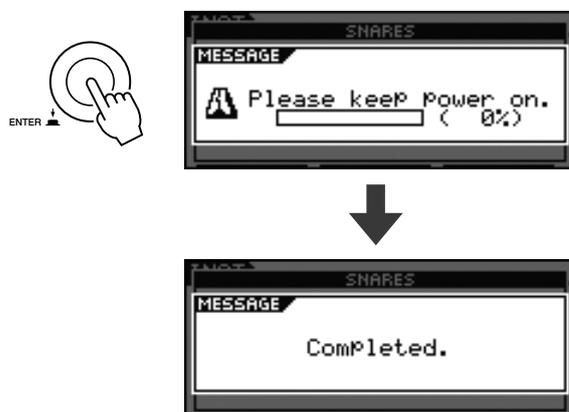
「off」はスナッピーを外した状態です。数字は、1 がスナッピーが最もゆるんだ状態で、数値が大きくなるほどスナッピーが張った状態になります。



7 [STORE] を押して、設定を保存します。



8 ツマミを押して、保存を実行します。



NOTE

- トリガー入力端子①SNAREに接続されているパッド以外を叩いたときは、このファンクション(機能)は画面に表示されません。

ソング（曲）にあわせて練習する

ソングを再生する

1 [SONG] を押します。



2 ツマミを回して、お好みの曲を選びます。



3 [F3] を押すと曲が再生されます。



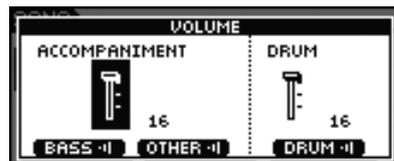
再生中の曲を止めたいときは、もう一度 [F3] を押します。

ソングのドラム以外の音量を調整する

1 [SONG] を押します。



2 [F1] を押します。

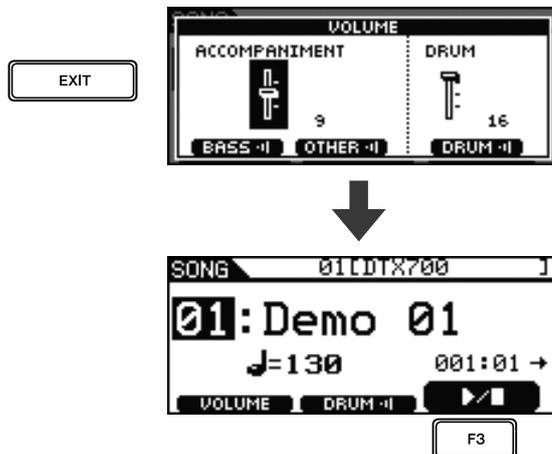


3 ツマミを回してお好みの音量に調整します。



4 [EXIT] を押してソング選択画面に戻り、[F3] を押して曲を再生します。

お好みの音量になっているか確認しましょう。



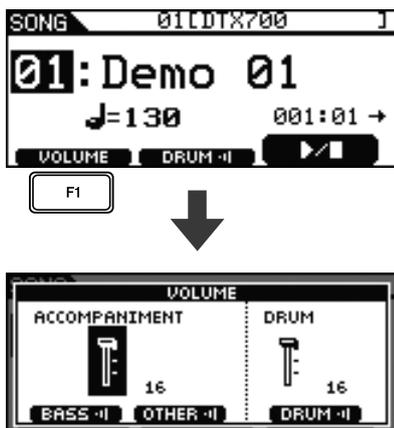
ソングのドラムだけ音量を調整する

ソングのドラムのパートだけ音量を調整します。わずかに内蔵のドラム演奏を鳴らしながら練習したいときに便利です。

1 [SONG] を押します。



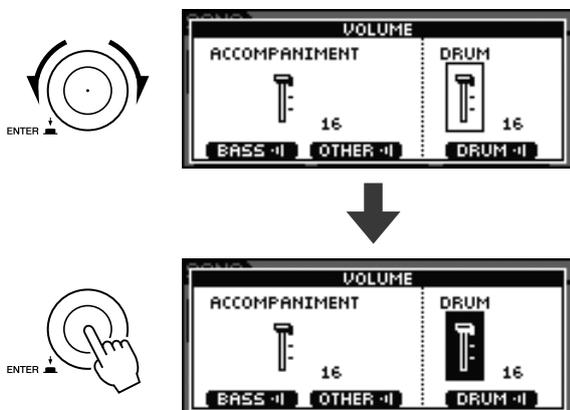
2 [F1] を押します。



3 ツマミを 1 回押してカーソルを切り替えます。



4 ツマミを回して、カーソルを「DRUM」に合わせ、もう一度つまみを押します。

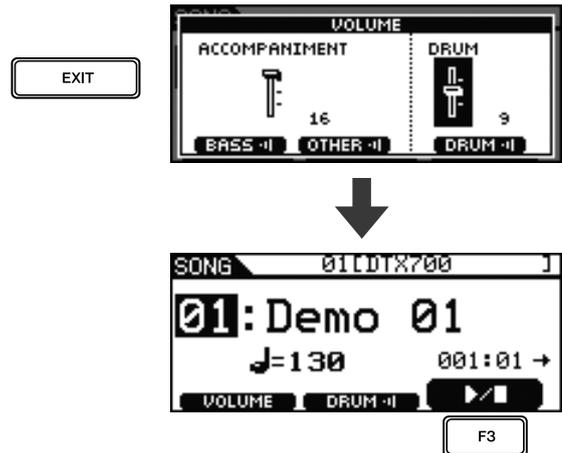


5 ツマミを回してお好みの音量に調整します。



6 [EXIT] を押してソング選択画面に戻り、[F3] を押して曲を再生します。

お好みの音量になっているか確認しましょう。



ソングのドラムだけミュート (消音) する

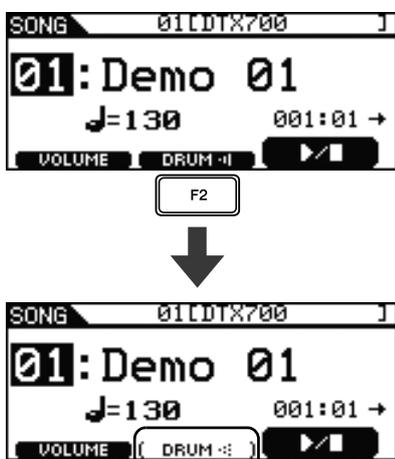
ソングのドラムのパートだけミュート (消音) します。ソングと一緒に演奏したいときに使います。

1 [SONG] を押します。



2 [F2] を押します。

画面上の **DRUM** が反転表示 (**DRUM**) になります。元に戻すときはもう一度 [F2] を押します。



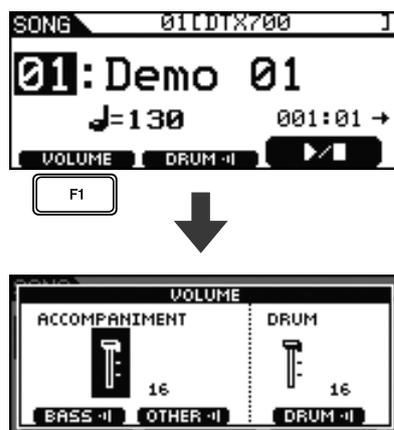
ソングのベースをソロ演奏にする

ソングのベースのパートだけ再生されるようにします。ベースのみの演奏と一緒に演奏したいときに使います。

1 [SONG] を押します。

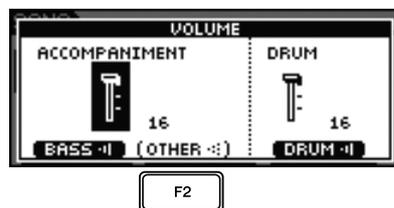


2 [F1] を押します。



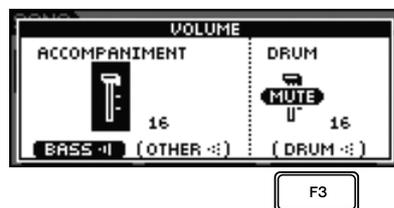
3 [F2] を押します。

伴奏パートがミュート (消音) されます。



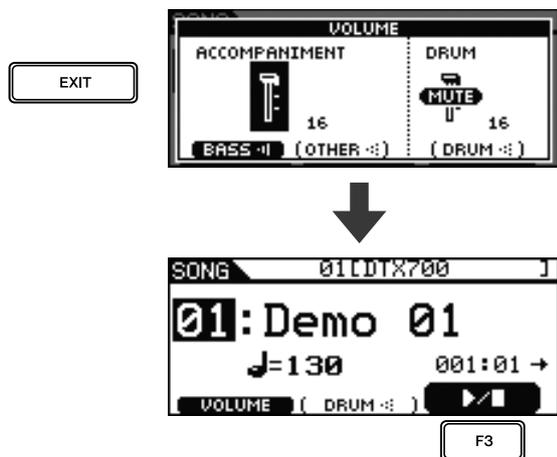
4 [F3] を押します。

ドラムパートがミュート (消音) されます。



5 [EXIT] を押してソング選択画面に戻り、[F3] を押し
て曲を再生します。

ソングのベースがソロ演奏になっているか確認しまし
ょう。



**ソングを選んだときにキットが切り替
わらないようにする (KIT LOCK)**

DTX700 は、ソングを選ぶとキットもソングに最適なもの
に自動で切り替わります。お好みのキットのまま、さまざま
な内蔵曲に合わせて練習したいときはキットロックをオンに
すると便利です。

1 [KIT] を押します。

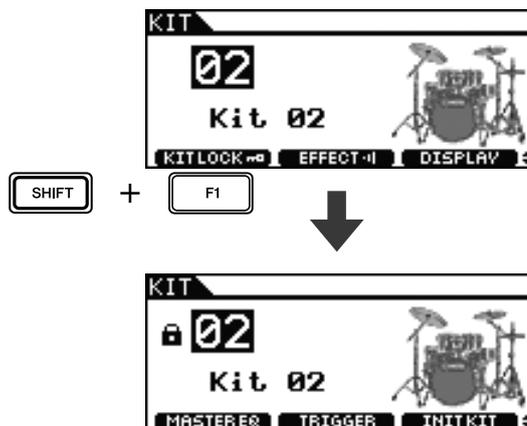


2 演奏にしたいキットを選びます。



3 [SHIFT] を押しながら [F1] を押します。

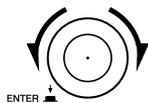
キット番号の横に鍵マーク  が表示されます。



4 [SONG] を押します。



5 ツマミを回して好きな曲を選びます。



NOTE

- 元の設定に戻すときは、手順1～3を行なってください。
キット番号の横の鍵マーク  が消えます。

クリック（メトロノーム）を鳴らす

テンポを設定してクリックを鳴らす

1 [CLICK] を押します。



2 ツマミを回して、好みのテンポにあわせます。



3 [ENTER] を押します。

設定したテンポでクリックが鳴ります。

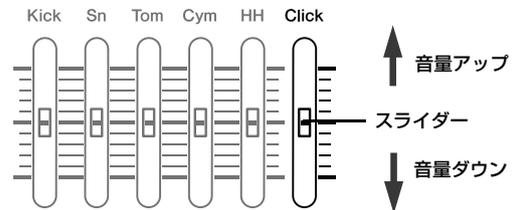
NOTE

- ここでテンポを設定した後にソングを選ぶ画面 (36 ページ) でソングを選ぶと、クリックを鳴らすテンポはソングのテンポになります。
- クリック音は [MENU] → 「Click」 → 「Voice」 で変更できます。詳しくは別冊のリファレンスマニュアル (PDF) をご覧ください。

クリックの音量を調節する

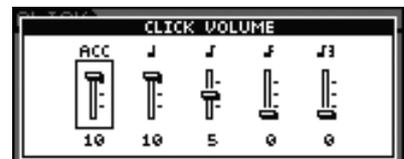
● クリック全体の音量を調節するとき

スライダーの Click を上下に動かします。



● クリックの細かい音量の調節

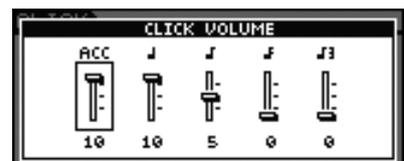
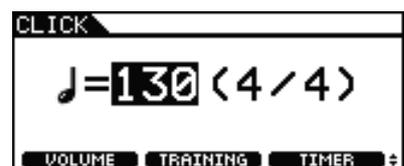
各クリックタイミングの音量を設定することもできます。



1 [CLICK] を押します。

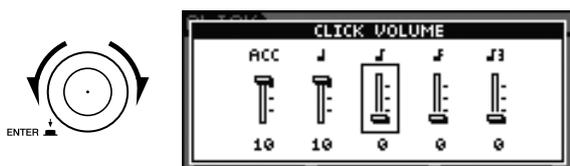


2 [F1] を押します。

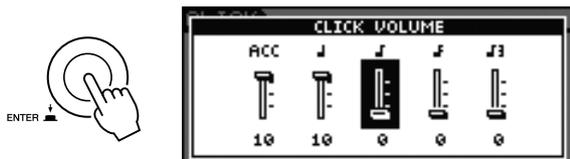


- ACC : 小節の先頭
- 1/4 : 4分音符
- 1/8 : 8分音符
- 1/16 : 16分音符
- 3/8 : 8分3連符

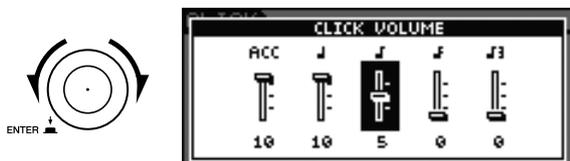
3 ツマミを回して、設定したいクリックタイミングを選びます。



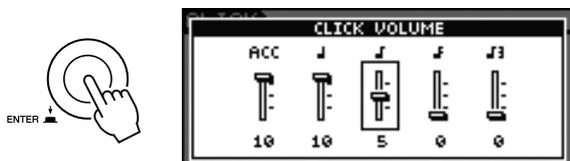
4 ツマミを押します。
選択したクリックタイミングが反転表示されます。



5 ツマミを回して、音量を調節します。



6 ツマミを押します。



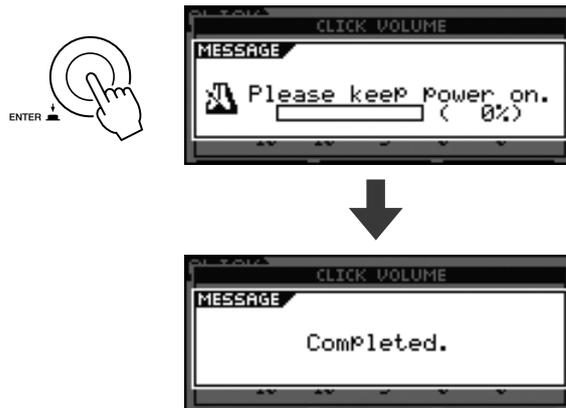
7 ほかのクリックタイミングを調節したいときは、手順3～6を繰り返します。

8 [STORE] を押します。



設定の保存をやめるときは、[EXIT] を押します。元の画面に戻ります。

9 ツマミを押して、保存を実行します。



クリックを鳴らすときの拍子を選ぶ

1 [CLICK] を押します。



2 ツマミを押します。

編集カーソルが移動カーソルに変わります。



3 ツマミを回して、下線を拍子の値に合わせます。



4 ツマミを押します。

移動カーソルが編集カーソルに戻ります。



5 ツマミを回して、クリックを鳴らしたい拍子を選びます。



6 ツマミを押して値を確定します。



NOTE

- ここで拍子を設定した後にソングを選ぶ画面(36ページ)でソングを選ぶと、クリックを鳴らす拍子はソングの拍子になります。

タイマーを使う

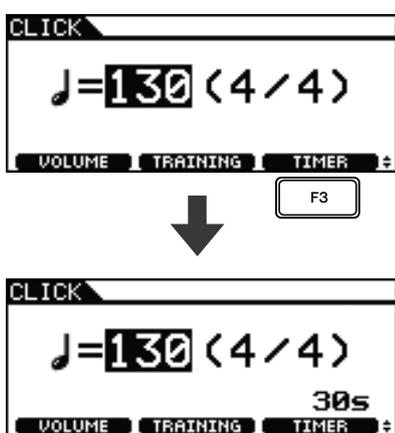
クリックを鳴らす時間をタイマーで指定できます。時間を決めて練習したいときに便利です。

1 [CLICK] を押します。



2 [F3] を押します。

1 回押すと 30 秒ずつタイマーの時間が増えます。最大 600 秒まで設定できます。



3 [M] を押します。

クリックが鳴ると同時にタイマーの時間が減り始めます。タイマーの時間がゼロになると、クリックは自動的に停止します。

NOTE

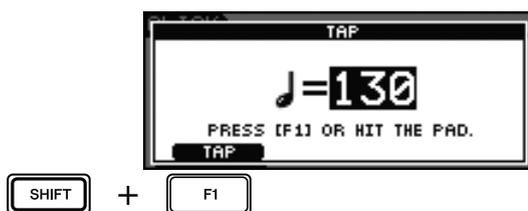
- クリックを鳴らしている最中、もう一度 [M] を押すと、クリックが停止しタイマーの時間はゼロになります。

パッドを叩いてテンポを決める (TAP TEMPO)

1 [CLICK] を押します。

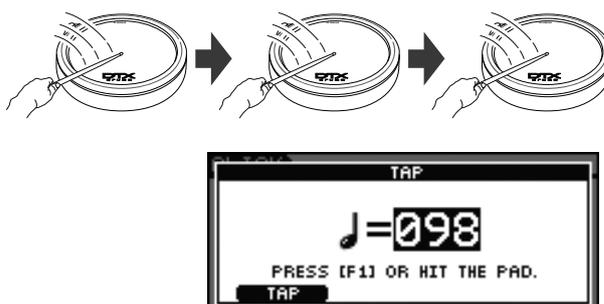


2 [SHIFT] を押しながら [F1] を押します。



3 お好みのテンポでパッドを 3 回以上叩きます。

叩いたテンポが画面に表示されます。



NOTE

- パッドを叩くかわりに、[F1] を 3 回以上押してもテンポを設定できます。
- ここでテンポを設定した後にソングを選ぶ画面 (36 ページ) でソングを選ぶと、クリックを鳴らすテンポはソングのテンポになります。

トレーニング機能を使う

DTX700には全部で3つのトレーニング機能があります。

- 叩くタイミングのズレやばらつきを見る：
グループチェック機能が便利です。
- 正確なタイミングで叩く練習をする：
リズムゲート機能が便利です。
- 一定のリズムで叩く練習をする：
メジャーブレイク機能が便利です。

● 叩くタイミングのズレやばらつきを見る (グループチェック機能)

叩くタイミングがクリック(メトロノーム)からどれくらいずれているのかを画面で確認できます。

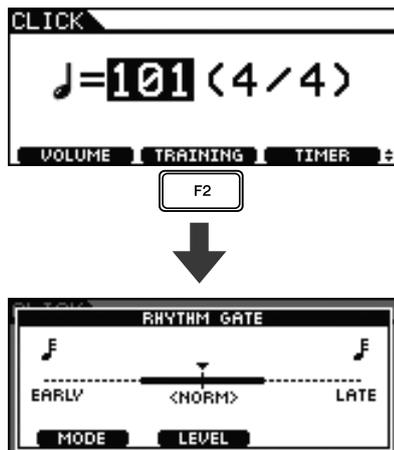
1 [CLICK] を押します。



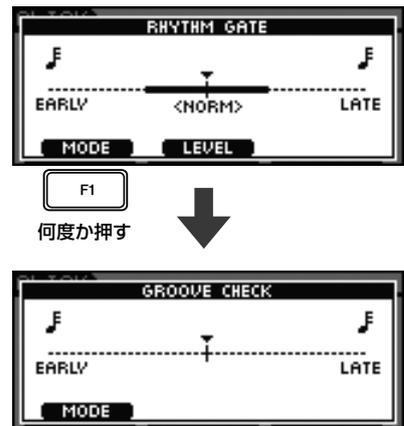
2 ツマミを回して、お好みのテンポにします。



3 [F2] を押します。

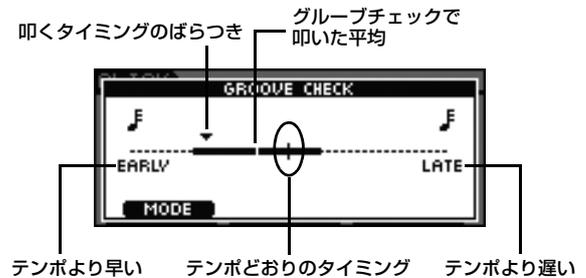


4 [F1] を何度か押して、「GROOVE CHECK」の画面を呼び出します。



5 [ENTER] を押してクリックを鳴らします。

6 クリックに合わせて演奏します。



画面の説明

自分が叩いたタイミングは▼印で表示されます。

▼印が画面中央のテンポどおりのタイミングに来ると、正確なテンポで叩いていることになります。

▼印が中央よりも左側に来るときは、テンポより早く叩いていることになります。

▼印が中央よりも右側に来るときは、テンポより遅く叩いていることになります。

「叩くタイミングのばらつき」の幅が広いほど、演奏にばらつきが大きいことを示します。

7 トレーニングが終わったら、[ENTER] をもう一度押します。

クリックが止まります。

● 正確なタイミングで叩く練習をする (リズムゲート機能)

パッドを正確なタイミングで叩かなければ発音しない機能です。ゲーム感覚で楽しみながら自分の演奏を確認できます。

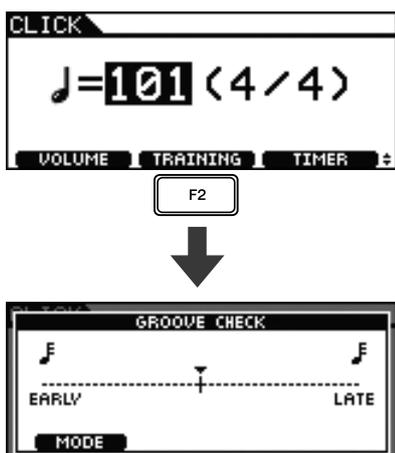
1 [CLICK] を押します。



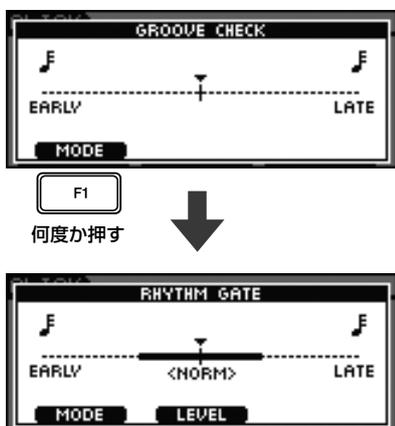
2 ツマミを回して、お好みのテンポにします。



3 [F2] を押します。

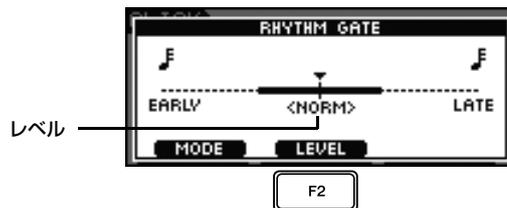


4 [F1] を何度か押して、「RHYTHM GATE」の画面を呼び出します。



5 [F2] を押して、レベルを決めます。

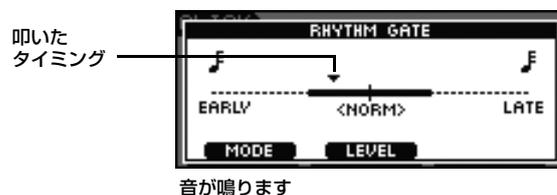
レベルは EASY(簡単)、NORM(普通)、PRO(プロ)の3段階から選べます。



6 [ENTER] を押してクリックを鳴らします。

7 クリックに合わせて演奏します。

正しいタイミングで叩いた例



タイミングがずれている例



8 トレーニングが終わったら、[ENTER] をもう一度押します。

クリックが止まります。

NOTE

- ・リズムゲート機能は、内蔵曲に合わせて使うこともできます。

● 一定のリズムで叩く練習をする
(メジャーブレイク機能)

設定した小節数だけクリックの音をミュート(消音)できます。たとえば、フィルインの小節数だけクリックを鳴らさないように設定するとフィルインでハシる、モタる状態が把握できるので、演奏全体を通して一定のリズムで叩くトレーニングをするのに最適です。

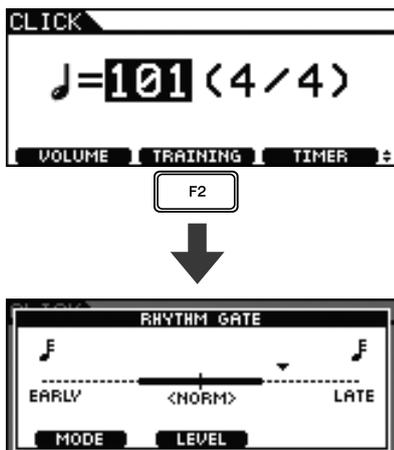
1 [CLICK] を押します。



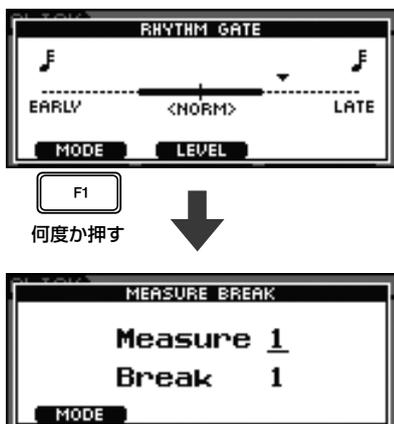
2 ツマミを回して、お好みのテンポにします。



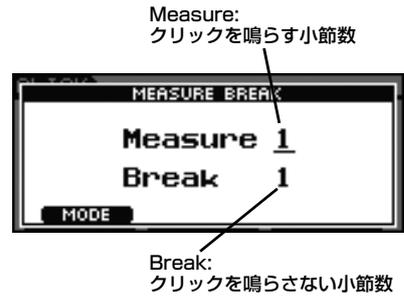
3 [F2] を押します。



4 [F1] を何度か押して、「MEASURE BREAK」の画面を呼び出します。



5 クリックを鳴らす小節数を設定します。



5-1 ツマミを押して、下線表示をカーソルにします。

5-2 ツマミを回して、お好みの小節数を設定します(小節数は1~9)。

5-3 ツマミを押して、カーソルを下線表示に戻します。

6 ツマミを回します。



7 クリックを鳴らさない小節数を設定します。

7-1 ツマミを押して、下線表示をカーソルにします。

7-2 ツマミを回して、お好みの小節数を設定します(小節数は1~9)。

7-3 ツマミを押して、カーソルを下線表示に戻します。

8 [M] を押してクリックを鳴らします。

9 クリックに合わせて演奏します。

10 トレーニングが終わったら、[M] をもう一度押します。
クリックが止まります。

自分の演奏を記録する

演奏を記録する

DTX700 では自分のドラムの演奏を内蔵のレコーダーに記録することができます。

1 [REC] を押します。

ボタンが赤く点灯します。



2 [▶/■] を押して、記録をスタートします。

[▶/■] ボタンが青く点滅します。



3 演奏を終わったら、再び [▶/■] を押します。

[REC] ボタンと [▶/■] ボタンの両方が消灯します。

NOTE

- 内蔵のレコーダーに記録される演奏データはオーディオファイルではありません。
- オーディオファイルの取り込み中や、USB 記憶装置とデータをやりとりしているときは、[REC] が点灯しません (記録できません)。
- 一度、演奏を記録したあとで、もう一度演奏を記録すると、前回記録した演奏は消えてしまいます。

記録した演奏を再生する

1 [▶/■] を押します。



2 再生をやめるときは、もう一度 [▶/■] を押します。

NOTE

- AUX IN 端子から入力される音声は録音されません。
- ソングの再生中に内蔵のレコーダーを再生すると、ソングの再生が停止します。内蔵のレコーダーを再生中にソングを再生すると、レコーダーの再生が停止します。

記録した演奏を消去する

1 [REC] を押します。

ボタンが赤く点灯します。



2 [▶/■] を押します。

[▶/■] ボタンが青く点滅します。



3 もう一度 [▶/■] を押します。

[REC] ボタンと [▶/■] ボタンの両方が消灯します。

内蔵曲と一緒に記録する

1 [SONG] を押します。

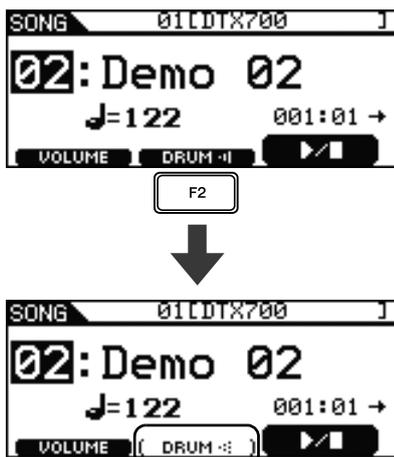


2 ツマミを回してソングを選びます。



3 [F2] を押し、内蔵曲のドラム演奏を消音します。

画面上の **DRUM** が反転表示 (DRUM) になります。



4 [REC] を押します。

ボタンが赤く点灯します。



5 [▶/■] を押して、記録をスタートします。

[▶/■] ボタンが青く点滅します。演奏をはじめましょう。

6 [F3] を押して、内蔵曲をスタートします。



7 曲が終わったら、もう 1 回 [▶/■] を押して記録を終了します。

[REC] ボタンと [▶/■] ボタンの両方が消灯します。

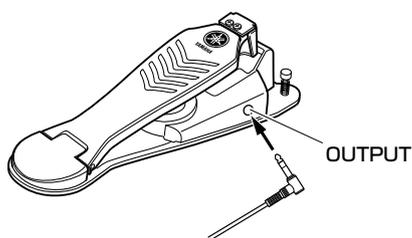
別売品を取り付ける

別売品を DTX700 に接続して楽しむ方法をご紹介します。

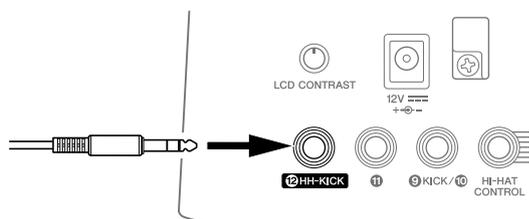
ハイハットコントローラー HH65 (別売品) をキックペダルとして使う

ハイハットコントローラー HH65 をトリガー入力端子 ⑫ HH-KICK に接続すると、HH65 を使ってバスドラムの音を鳴らすことができます。

- 1 DTX700 の電源を切ります。
接続する前に、DTX700 の電源が切れていることを確認してください。
- 2 HH65 に付属されているケーブルの一方のプラグを、HH65 の OUTPUT 端子に差し込みます。



- 3 ケーブルのもう一方のプラグを、DTX700 のトリガー入力端子 ⑫ HH-KICK に接続します。

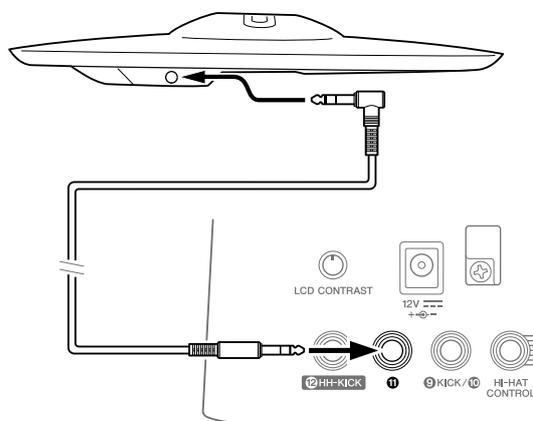


- 4 DTX700 の電源を入れます。
- 5 お好みのキットを選んで演奏してみましょう。

DTX700 に別売品のパッド (シンバルパッド PCY135) を増設する

ここでは DTX700 に別売品のシンバルパッド PCY135 を増設する手順を説明します。

- 1 購入したシンバルパッド PCY135 を、別売のシンバルホルダーなどを用いて、お手持ちのセットに取り付けます。
- 2 パッドに付属のケーブルを用いて、パッドと DTX700 を接続します。今回は ⑪ 端子に接続します。



- 3 DTX700 の電源を入れます。
- 4 増設したシンバルパッドを叩きます。
- 5 最適なパッドタイプを選びます。
 - 5-1 [MENU] を押します。
 - 5-2 ツマミを回して「Trigger」を選び、ツマミを押します。
 - 5-3 ツマミを回して「Pad」を選び、ツマミを押します。
 - 5-4 ツマミを回して「PadType」を選び、ツマミを押します。
 - 5-5 ツマミを押し、ツマミを回して「PCY135」を選び、ツマミを押します。

6 [STORE] を押して設定を保存します。

以下のメッセージが表示されたら、ツマミを押して保存を実行します。

STORE

**7** [INST] を押して、増設したシンバルパッドを叩きます。

パッドが正しく接続されている場合、画面右上に「Pad11」が表示されます。

INST

**8** ツマミを回して、増設したパッドから鳴らしたい音色を選びます。**9** 音色が決まったら、[STORE] を押して設定を保存します。

以下のメッセージが表示されたら、ツマミを押して保存を実行します。

STORE



DTX700 をコンピューターに接続する

コンピューターに接続する

本体とコンピューターを USB ケーブルで接続することで MIDI データを送受信でき、音楽制作ソフトウェアの入力機器として使えます。ここでは、本体とコンピューターの接続方法について説明します。

NOTE

- 音を鳴らすには、本体にスピーカーやヘッドフォンを接続する必要があります。詳しくは、13 ページをご覧ください。
- USB ケーブルは付属しておりません。本体をコンピューターと接続するときは、3 メートル以下の、AB タイプの USB ケーブルをお買い求めください。

1 以下の URL から、最新の USB-MIDI ドライバーをダウンロードします。

ダウンロードボタンを押したあと、ファイルの実行および解凍をします。

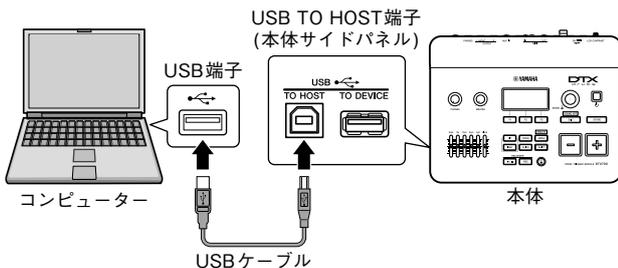
http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

NOTE

- 動作環境については、上記 URL をご覧ください。
- USB-MIDI ドライバーは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記 URL をご確認ください。

2 USB-MIDI ドライバーをコンピューターにインストールします。

詳しくは、USB-MIDI ドライバーのインストーラーに付属のインストールガイドをご覧ください。インストールガイドには、本体とコンピューターを接続する手順がありますので、下の図を参考に接続してください。



■ USB TO HOST 端子ご使用時の注意

USB TO HOST 端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行わないと、コンピューターや本体が停止（ハングアップ）して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れなおしてください。

注記

- USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。また、3 メートル以下のケーブルをご使用ください。
- USB TO HOST 端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力（サスペンド / スリープ / スタンバイ / 休止）モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、USB TO HOST 端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン / オフや USB ケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。（パッドを叩いたりパターンを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。）
 - 本体の電源オン / オフや USB ケーブルの抜き差しは、6 秒以上間隔を空けて行ってください。

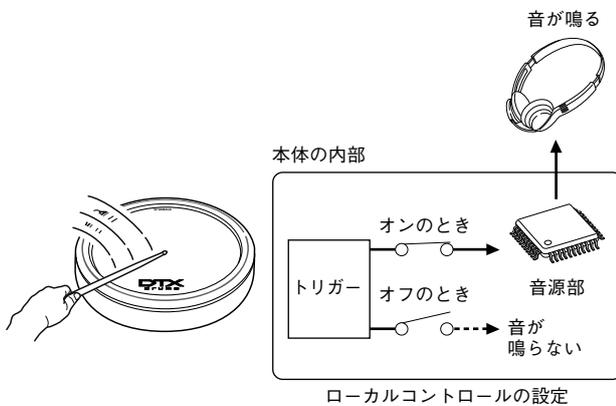
コンピューターを活用した音楽制作

■ DAW ソフトウェアに本体の演奏を録音する

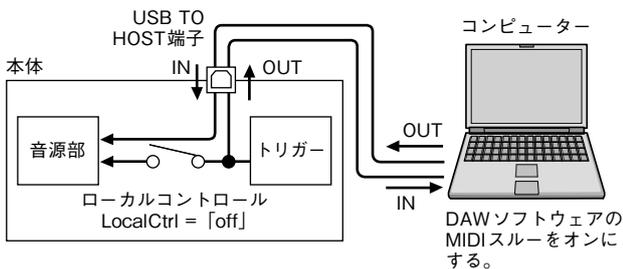
【用語】 DAW ソフトウェア

デジタルオーディオワークステーション (Digital Audio-Workstation) ソフトウェアの略で、オーディオの録音や編集、ミキシングなど一連の作業ができる Cubase のようなアプリケーションソフトのことを指します。

本体をコンピューターに接続して、DAW ソフトウェアに本体の演奏を録音する準備について説明します。本体をコンピューターに接続して使用するとき、通常は、パッドを叩いて演奏したデータをコンピューターに送信し、その情報をコンピューターから返してもらって音源部を鳴らします。このとき本体のローカルコントロールがオンになっていると、音源部に情報を送信してしまうので、コンピューターから送り返された情報と重なることにより、音が二重に鳴って聞こえたりする場合があります。



コンピューター上のソフトウェアにもよりますが、次の図のように本体側のローカルコントロールをオフにして、DAW ソフトウェア側の MIDI スルーをオンに設定すると、音が二重になって聞こえたりせず、適切なサウンドが得られます。

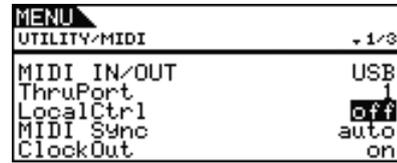


では本体側とソフトウェア側の設定のしかたについて、それぞれ以下で説明します。

● 本体側の設定手順

本体のローカルコントロールを「off」に設定します。

1 [MENU] → 「Utility」 → 「MIDI」のメニュー画面を開き、「LocalCtrl」の値を「off」にします。



2 [STORE] を押し、ツマミを 1 回押して設定を保存します。

ローカルコントロールをオフにすると、パッドを叩いても音源部へ演奏データが送信されません。

● DAW ソフトウェア側の設定

MIDI スルーをオンにします。MIDI スルーとは、DAW ソフトウェアの録音トラックに演奏データをレコーディングすると同時に、外部へ演奏データを送り返す設定のことです。

たとえば、DAW ソフトウェアの録音トラック 3 に演奏データをレコーディングするとします。また、演奏データを送り返すチャンネルが CH1 に設定されているとします。このとき録音トラック 3 の MIDI スルーをオンに設定すると、DAW ソフトウェアは CH1 の演奏データを本体へ送り返し、本体の内蔵音源の CH1 を鳴らします。

NOTE

- MIDI スルーの設定方法につきましては、各 DAW ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- 本体側のローカルコントロールをオフにした状態で MIDI スルーをオフにすると、DAW ソフトウェアから内蔵音源へ MIDI データが送り返されないため、音が鳴りません。

■ DAW ソフトウェアの MIDI データを本体の音源で鳴らす

DTX700 本体を、DAW ソフトウェアの MIDI マルチ音源として利用する方法です。DAW ソフトウェア側の設定をするだけで、クオリティーの高い MIDI 音源として利用できます。コンピューターとの接続については、52 ページをご覧ください。

1 DAW ソフトウェアの各トラックの MIDI 出力先を本体に設定します。

2 DAW ソフトウェア上で MIDI ファイルを再生します。

Cubase をリモートコントロールする

本体には Cubase のリモート機能が搭載されています。この機能を使えば、Cubase のクリックのオン/オフやトランスポートコントロールなどを本体パネル上から行なえるので、効率よく音楽制作ができます。

■ コンピューター側の設定手順

はじめてリモート機能を利用するときは、以下の手順でコンピューター側の設定をしてください。

1 以下の URL から、最新の DTX700 Extension をダウンロードします。

ダウンロードが完了したら、適当な場所でファイルを解凍します。

<http://www.yamaha.co.jp/product/drum/ed>

NOTE

- あらかじめ最新の USB-MIDI ドライバーをコンピューターにインストールしてください (52 ページ)。
- 動作環境については、上記 URL をご覧ください。
- DTX700 Extension は、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記 URL をご確認ください。

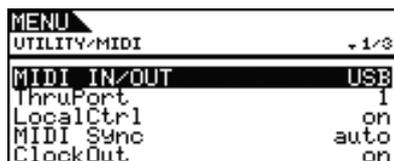
2 解凍したファイルを実行して、DTX700 Extension をコンピューターにインストールします。

詳しい手順につきましては、ダウンロードしたファイルに付属の取扱説明書をご覧ください。

■ 本体側の設定手順

リモート機能を利用するときには、以下の手順で本体側の設定をします。

1 [MENU] → 「Utility」 → 「MIDI」 のメニュー画面を開き、「MIDI IN/OUT」の値を「USB」にします。



2 本体とコンピューターが正しく接続されていることを確認し、Cubase を起動します。

コンピューターとの接続については、52 ページをご覧ください。

3 [SHIFT] を押しながら [MENU] を押します。

LCD に「Cubase Remote」のメッセージが表示され、リモート機能が有効になります。



NOTE

- リモート機能が有効になると、DTX700 本体パネルの操作可能なボタンが点灯します。

4 リモート機能を無効にするときは、もう一度 [SHIFT] を押しながら [MENU] を押します。

■ リモート機能の操作について

NOTE

- リモート機能の操作につきましては、ダウンロードしたファイルに付属の取扱説明書をご覧ください。

メッセージ一覧

メッセージ	説明
Are you sure?	[YES]/[NO]各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
Completed.	ロード、セーブ、フォーマット、ジョブなどの実行が完了したときに表示されます。
Connecting USB device...	USB記憶装置を接続中です。
Copy protected.	著作権保護されているデジタルオーディオソースのため、ウェーブ編集などができません。
Excessive demand for USB power.	USB記憶装置の消費電力が規定値を超えています。
Executing...	フォーマット中や、ジョブの実行中に表示されます。そのままお待ちください。
File already exists.	同じ名前のファイルがすでに存在しています。
File not found.	選択したタイプのファイルがありません。
Illegal file.	ロードのとき、目的のファイルが本体では扱えない、または現在のモードではロードできない場合に表示されます。
Illegal file name.	ファイル名が無効の場合表示されます。
Illegal format.	フォーマット1のスタンダードMIDIファイル(SMF)をインポートすると表示されます。フォーマット0のSMFを選んでください。
Illegal selection.	ファイルモードで選択された内容で実行することができません。
Illegal wave data.	本体がサポートしていないウェーブファイルを扱おうとした場合に表示されます。
Incompatible USB device.	本体では使用できないUSB機器が、USB TO DEVICE端子に接続されると表示されます。
Invalid USB device.	USB記憶装置が不良です。フォーマットを実行してやりなおしてください。
MIDI buffer full.	一度に大量のMIDIデータを受信したので処理できませんでした。
MIDI data error.	MIDIデータを受信中にエラーが発生しました。
No data.	ソングジョブを実行する際、選択したソングにデータが無くジョブが無効な場合に表示されます。レコードデータが無い時に再生しようとする则表示されます。
No response from USB device.	USB記憶装置から応答がありません。
No unused MIDI note.	キットのコピーパッドジョブ実行時に、使用されていないMIDIノートが存在しない場合に表示されます。
No wave data.	ウェーブに関するジョブ実行時に、対象となるウェーブが存在しない場合に表示されます。
Now importing...[EXIT] to cancel.	ウェーブのインポート中に表示されます。
Now loading...[EXIT] to cancel.	ファイルロード中に表示されます。
Now saving... [EXIT] to cancel.	ファイルセーブ中に表示されます。
Now working...	ウェーブのインポート終了時や、ロード/セーブ実行を[EXIT]ボタンで中止したときの、後処理実行中に表示されます。
Overwrite?	ファイルをセーブする際、USB記憶装置内に同名のファイルがある場合に表示されます。
Please keep power on.	フラッシュROMへのデータの書き込み中です。表示中は絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失われたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。
Please stop sequencer.	シーケンサー(ソング)を停止してから操作してください。
Read only file.	読み取り専用のファイルを選択しファイル操作を実行すると表示されます。
Sample is protected.	サンプルにプロテクトがかかっているため、書き換えができません。
Sample is too long.	サンプルが長すぎて読み込めません。
Sample is too short.	サンプルが短すぎて読み込めません。
Seq memory full.	シーケンサー用の内部メモリーが一杯で、レコーディングやジョブの実行、USB記憶装置からのデータのロードができない場合に表示されます。不要なユーザーパターンを消去してから、操作をやりなおしてください。
Stored.	ストア(保存)されました。
System memory crashed.	フラッシュROMへのデータ書き込みに失敗した場合に表示されます。
USB connection terminated.	USB記憶装置に異常な電流が流れたので接続を遮断しました。接続しているUSB記憶装置を外した上で[ENTER]ボタンを押してください。
USB device full.	USB記憶装置の容量が一杯でファイルがセーブできないときに表示されます。新しいUSB記憶装置を用意するか、不要なファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
USB device not ready.	USB記憶装置が本体に正しくセットされていない場合に表示されます。
USB device read/write error.	USB記憶装置へのリード/ライト中にエラーが発生しました。
USB device write protected.	USB記憶装置が書き込み禁止状態になっている、または、CD-ROMドライブなどへの書き込みを行おうとした場合に表示されます。
USB host not ready.	コンピューターとの接続が確立されていない状態でリモート機能をオンにすると表示されます。
USB transmission error.	USB記憶装置との通信中にエラーが発生しました。
Wave memory full.	ウェーブ用のメモリーが一杯で、インポートやジョブ、ロードなどが実行できない場合に表示されます。

困ったときは

お困りの際は、別冊のリファレンスマニュアル (PDF) もあわせてご覧ください。
リファレンスマニュアルのダウンロードについては、5 ページをご覧ください。

DTX700が発音しない、または打撃を検出しない	<ul style="list-style-type: none"> パッドが正しくDTX700のトリガー入力端子に接続されていますか？ DTX700とヘッドフォンやアンプ/スピーカーなどの外部機器とは正しく接続されていますか？ (13ページ) DTX700に接続しているアンプ/スピーカーの電源は入っていますか？ またボリュームは下がっていませんか？ マスターボリューム (VOLUME) が下がっていませんか？ (19ページ) 使用しているケーブルが不良ではありませんか？
音は出るが感度が低い(音が小さい)	<ul style="list-style-type: none"> パッドにレベル調節つまみなどがある場合は、(上げる方向で)調整してください。 鳴らない音色(インスト)のスライダーが最小になっていませんか？ (11ページ)
ダブルトリガー (二度鳴り) を起こす	パッドにレベル調節つまみなどがある場合は、(下げる方向で)調整してください。
DTX700がすべてのスイッチやトリガー入力を受け付けなくなった	ファクトリーセットを行なってください。購入時の状態に戻ります。(22ページ)
音が鳴りやまない	[SHIFT] を押しながら [EXIT] を押してオールサウンドオフを実行すると、音が鳴り止みます。
パッドコントロール機能が使えない/正しく動作しない	XP100SD などのパッドコントローラー付きのパッドを接続していますか？
ハイハットのオープン音/クローズ音が鳴らない	「DBL BASS」 がオンになっていませんか？ (32ページ)
ファクトリーセット (初期化) をしたい	22ページをご覧ください。DTX700の内部の設定を購入時の状態に戻します。
途中で電源が切れてしまう	自動電源オフ(オートパワーオフ)が有効になっていませんか？ (14ページ)
電源を入れた直後に、毎回ファクトリーセットが実行される	「PowerOn Auto」 をオフにしてください。(22ページ)
ソングを選ぶとキットが変更されてしまう	ソングは最適なキットがあらかじめ割り当てられています。お好みのキットを選び、キットロックをオンにしてください。(39ページ)
ソングの伴奏(ドラム以外の演奏)が鳴らない	ドラム以外の音(Accompaniment)のミュート(消音)がオンになっていませんか？ (37ページ)
メトロノーム(クリック)が鳴らない スネア、キックなど特定の音だけ鳴らない	鳴らない音色(インスト)のスライダーが最小になっていませんか？ (41ページ)
つまみを回してもドラムキットが選べない	キットロックがオンになっていませんか？ (39ページ)
演奏が記録できない	[MENU] を押すと表示されるメニュー選択画面の状態では、演奏を記録することができません。
ハイハットクローズにならない	別冊のリファレンスマニュアル(PDF)をご覧ください。
リモート機能から抜けられない	本書の54ページをご覧ください。

仕様

音源部	音源方式	AWM2
	最大同時発音数	64音
	波形メモリー	100メガバイト相当(16ビットリニア換算)
	ボイス数	ドラム/パーカッション:1268音色 キーボード:128音色
	ドラムキット数	60キット(すべて編集/上書き保存可能) ※うち50キットはプリセットデータ
	エフェクター	バリエーション×42タイプ、コーラス×6タイプ、リバーブ×6タイプ、 キットEQ(4バンド)/マスターEQ(3バンド)
トリガー	トリガーセットアップ	20種類(すべて編集/上書き保存可能) ※うち9種類はプリセットデータ
	パッドソング	スタート/ストップ、チェイス、カットオフ 最大同時3曲再生可能
ウェーブ	読み込み可能ウェーブ数	500ファイル
	ウェーブデータビット	16ビット
	波形メモリー	64メガバイト
	サンプル形式	オリジナルフォーマット、WAV、AIFF
シーケンサー	シーケンサー容量	約152000音
	音符分解能	4分音符/480
	レコーディング方式	リアルタイム
	ソング数	93曲(すべて編集/上書き保存可能) ※うち63曲はプリセットデータ (デモ曲:2、練習曲:44、パッドソング:17)
	シーケンスフォーマット	オリジナルフォーマット SMFフォーマット0(ロードのみ)
クリック	テンポ	30~300/分、タップテンポ機能
	ビート	1/4~16/4、1/8~16/8、1/16~16/16
	タイミング	アクセント、4分音符、8分音符、16分音符、8分3連符
その他	ディスプレイ	160×64ドットグラフィックLCD(バックライト付)
	接続端子	トリガー入力1-11(ステレオ標準フォーン端子) HI-HAT CONTROL(ステレオ標準フォーン端子) HH-KICK(ステレオ標準フォーン端子) OUTPUT L/MONO、R(標準フォーン端子) OUTPUT R(標準フォーン端子) PHONES(ステレオ標準フォーン端子) AUX IN(ステレオミニフォーン端子) MIDI IN/OUT USB(TO HOST、TO DEVICE) DC IN
	消費電力	6W
	寸法、質量	277(W)×213(D)×95(H)mm、1.5kg
	付属品	電源アダプター(PA-150または同等のヤマハ推奨品)、保証書、 取扱説明書(本書)、データリスト、モジュールホルダー、 モジュールホルダー止めネジ:4本、DVD-ROM(付属ソフトウェア)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

Symbols

[12V  + ]端子	12, 13
[]ボタン	11, 41
電源スイッチ	10, 13, 14
[ / ]ボタン	11, 48
[AUX IN](外部入力)端子	12, 13
[CLICK]ボタン	11, 41
[EXIT]ボタン	10
HI-HAT CONTROL 端子	12, 32
[INST]ボタン	11, 30
[KIT]ボタン	10, 25
[LCD CONTRAST]ノブ	12, 19
[MASTER]ノブ	10, 14, 19
[MENU]ボタン	11, 20
[MIDI IN] (MIDI入力)端子	12, 13
[MIDI OUT] (MIDI出力)端子	12, 13
[OUTPUT L/ MONO]、[R]端子	12, 13
[PHONES]端子	12, 13
[PHONES]ノブ	10, 13, 19
[REC]ボタン	11, 48
[SHIFT]ボタン	11, 18
[SONG]ボタン	11, 36
[STORE]ボタン	10, 21
[USB TO DEVICE]端子	11, 21
[USB TO HOST]端子	11, 52
[-/DEC]ボタン	11, 18
[+/INC]ボタン	11, 18

Numerics

16分音符	41
4分音符	41
8分3連符	41
8分音符	41

A

ACC	41
ACCOMPANIMENT	37
AfAr	31
Asia	31

C

CLUTCH	31
Cubase	54
Cym (シンバル)	31

D

DAWソフトウェア	53
DBL BASS	32
DECAY	31
DISPLAY	29

E

EFFECT	28
EFX (効果音)	31
EIPc (電子パーカッション)	31

F

[F1]~[F3] →ファンクション	10, 18
-----------------------	--------

G

GROOVE CHECK	45
--------------	----

H

HH (ハイハット)	31
HH65→ハイハット コントローラー	12, 32, 50

I

INITKIT	28
---------	----

K

Kick (キック)	31
KITLOCK →キットロック	18, 39

L

Latn (ラテン)	31
LCD→液晶ディスプレイ	10, 19, 29
LCD表示切替	18, 29
LocalCtrl	53

M

MASTER EQ	27
MEASURE BREAK	47
Mldy (メロディー音)	31
MUFFLING	31

O

Orch (オーケストラ)	31
---------------	----

P

PowerOn Auto	15, 22
--------------	--------

R

REMOTE	54
RHYTHM GATE	46

S

SIZE	31
Sn1 (スネア1)	31
Sn2 (スネア2)	31
SNARES	35
SUSTAIN	31

T

TAP	44
TIMER	44
Tom1 (タム1)	31
Tom2 (タム2)	31
TRIGGER	26
TUNING	31

U

USB-MIDIドライバー	52
USB記憶装置	11, 21, 32

W

Wave (オーディオデータ)	31
-----------------	----

イ

インスト	8, 11, 30
インスト→[INST]	11, 30

エ

液晶ディスプレイ	10, 19, 29
エグジット→[EXIT]	10
エッジショット	23, 24
エフェクトスイッチ	18
演奏の記録	11, 48
演奏の記録→記録	9, 48

オ

オーディオファイル	32
オートパワーオフ	14, 56
オープン	23
オープンリムショット	23
オールサウンドオフ	10, 56
音響効果	28
音質	27
音色→インスト	8, 11, 30
音量	19, 36, 41

カ

カーソル	17
外部オーディオ機器	12, 13

下線表示	17
カテゴリ	30
感度	26, 56

キ

キット	25, 26
キット→[KIT]	10, 25
キットの初期化	28, 30, 32
キットロック	18, 39
記録	9, 48

ク

クラッチ→[CLUTCH]	31
クリック	41
クリック→[CLICK]	11, 41
クリック →メトロノーム	9, 11, 41
グループチェック機能	45
クローズ	23
クローズドリムショット	23

ケ

携帯用音楽プレーヤー	12, 13
------------	--------

コ

コードフック	12, 13
コントラスト調節	19

サ

サイズ→SIZE	31
再生	36
サイドパネル	11
サステイン→SUSTAIN	31

シ

自動電源オフ →オートパワーオフ	14, 56
シフト→[SHIFT]	11, 18
消音→ミュート	38, 56
小節の先頭→ACC	41
シンバル	24, 50

ス

ストア	10, 21
ストア→[STORE]	10, 21
スナッピー	35
スネア	23, 35
スピーカー	13
スライダー	11, 41

ソ

ゾーン	12, 23, 33
ソング	36
ソング→[SONG]	11, 36

タ

タイマー	44
タップテンポ	44
タム	23

チ

チューニング→TUNING	31
チョーク奏法	24

ツ

ツーバス	12, 32
ツインバス→ツーバス	12, 32
ツマミ (押しボタン一体型)	10, 17

テ

データリスト	5, 27, 30
ディケイ→DECAY	31
デモソング→内蔵曲	8, 16
電源アダプター	13
テンポ	9, 41

ト

トリガーセットアップ	26
トリガー入力端子	12, 32, 50
トレーニング機能	45

ナ

内蔵曲	8, 16
内蔵のレコーダー	48

ハ

ハイハット	23
ハイハット コントローラー	12, 32, 50
ハイハットスプラッシュ	23
パッドコントローラー	35
パッドの増設	50
反転表示	17

ヒ

響き線→スナッピー	35
拍子	43

フ

ファクトリーセット	22, 56
ファンクション	10, 18
プリセットEQ	27
フロントパネル	10

ヘ

ベースソロ	38
ヘッドショット	23
ヘッドフォンボリューム →[PHONES]	10, 13, 19
ベルショット	24

ホ

ボウショット	23, 24
保存→ストア	10, 21

マ

マスターボリューム →[MASTER]	10, 14, 19
マフリング→[MUFFLING]	31

ミ

ミュート	38, 56
ミュート奏法	24

メ

メジャーブレイク機能	45, 47
メトロノーム	9, 11, 41
メトロノーム →クリック	41
メニュー	5, 20, 59
メニュー→[MENU]	11, 20

モ

モニターシステム	13
----------	----

ラ

ライン出力	12, 13
-------	--------

リ

リズムゲート機能	45, 46
リバーブ	28
リファレンス マニュアル	5, 20, 59
リモート機能	54

レ

レック→[REC]	11, 48
-----------	--------

ロ

ローカルコントロール	53
------------	----

DTX700 の機能一覧表

別冊のリファレンスマニュアル (PDF) もあわせてご覧ください。
リファレンスマニュアルのダウンロードについては、5 ページをご覧ください。

MENU		
Kit	Song	Utility
Trigger	Click	Wave
File		

MENU → Kit	
Common	
Volume	キット全体の音量
Tempo	キット選択時のテンポ
TrgSetupLink	トリガーセットアップリンク
Name	キット名
Icon	アイコンの変更
Voice	
VoiceCategory	ボイスのカテゴリ
VoiceNumber	ボイス番号
Tune	ボイスのチューニング
Volume	ボイスの音量
Pan	ボイスのパン(定位)
Attack	アタックタイム
Decay	ディケイタイム
Release	リリースタイム
Filter	フィルター
Q	Q(レゾナンス)
VarSend(Dry)	バリエーションセンド
ChoSend	コーラスセンド
RevSend	リバーブセンド
Mono/Poly	音源の設定(モノ/ポリ)
AltGroup	オルタネートグループ
SliderSelect	スライダーセレクト
MIDI	
Assign	
Message Type	MIDI メッセージタイプの選択
Mode	発音の設定
Note	出力 MIDI ノート
MIDI Ch	MIDI チャンネル
GateTime	ゲートタイム
RcvKeyOff	レシーブキーオフ
TrgLink	トリガーリンク
MaskTime	マスクタイム
VelLimitLo	ベロシティーリミット(下限)
VelLimitHi	ベロシティーリミット(上限)
VelCrossFade	ベロシティークロスフェード
TrgVel	トリガーベロシティー
TrgMonoPoly	トリガーモノ/ポリ
TrgAltGrp	トリガーオルタネートグループ
TG/MIDI Sw	
TG Switch	トーンジェネレータースイッチ
MIDI Switch	MIDI スイッチ
MIDI	
Other	
Transmit	トランスミット
Volume	ボリューム
Pan	パン(定位)
MSB	バンクセレクト MSB
LSB	バンクセレクト LSB
PC	プログラムチェンジ
VarSend(Dry)	バリエーションセンド
ChoSend	コーラスセンド
RevSend	リバーブセンド
CC No	コントロールチェンジナンバー
CC Val	コントロールチェンジバリュー
Effect	
Mixer	
VarReturn	バリエーションリターン
VarPan	バリエーションパン(定位)
VarToRev	バリエーション トウ リバーブ
VarToCho	バリエーション トウ コーラス
ChoSend	コーラスセンド
ChoReturn	コーラスリターン
ChoPan	コーラスパン(定位)
ChoToRev	コーラス トウ リバーブ
RevSend	リバーブセンド
RevReturn	リバーブリターン
RevPan	リバーブパン(定位)
Variation	
Category	バリエーションカテゴリ
Type	バリエーションタイプ
Chorus	
Type	コーラスタイプ
Reverb	
Type	リバーブタイプ
EQ	
LowGain	ローゲイン
LowFreq	ローフリクエンシー
LowQ	ロー Q
LowShape	ローシェイプ
LowMidGain	ローミッドゲイン
LowMidFreq	ローミッドフリクエンシー
LowMidQ	ローミッド Q
HighMidGain	ハイミッドゲイン
HighMidFreq	ハイミッドフリクエンシー
HighMidQ	ハイミッド Q
HighGain	ハイゲイン
HighFreq	ハイフリクエンシー
HighQ	ハイ Q
HighShape	ハイシェイプ

MENU → **Kit****Pad**

└ PadCtrlType	パッドコントロールタイプ
└ HH Func	ハイハットファンクション
└ HH MIDI Ch	ハイハット MIDI チャンネル
└ HH MIDI Type	ハイハット MIDI タイプ
└ SnareOn/Off	スネアオン / オフ
└ SnaresAdjust	スネアアジャスト
└ SnareBuzz	スネアバズ
└ ResonanceLevel	レゾナンスレベル

Job

└ CopyPad	
└ Pad1	コピーパッド(コピー元)
└ Pad2	コピーパッド(コピー先)
└ CopyKit	
└ Bank	コピーキット(バンク)
└ Number	コピーキット(番号)
└ ExchgPad	
└ Pad1	エクスチェンジパッド
└ Pad2	
└ ExchgKit	
└ Kit1	エクスチェンジキット
└ Kit2	
└ ClearPad	
└ Pad	クリアパッド
└ ClearKit	クリアキット

MENU → **Song****Common**

└ Loop	ソングのループ再生
└ Tempo	ソングのテンポ
└ Name	ソング名

MIDI

└ Transmit	MIDI トランスミット
└ Volume	MIDI ボリューム
└ Pan	MIDI パン(定位)
└ MSB	バンクセレクト MSB
└ LSB	バンクセレクト LSB
└ PC	プログラムチェンジ
└ VarSend(Dry)	バリエーションセンド
└ ChoSend	コーラスセンド
└ RevSend	リバーブセンド

Job

└ Clear	クリアソング
└ ClearAll	クリアオールソング
└ Copy	
└ Bank	コピーソング(バンク)
└ Number	コピーソング(番号)
└ ImprtSMF	
└ SMF	インポート SMF

MemInfo

メモリーインフォメーション

MENU → **Utility****General**

└ MasterVolume	マスターボリューム
└ MasterTune	マスターチューン
└ PanDepth	パンデプス
└ AuxOutSel	AUX アウトプットセレクト
└ PlayCount	プレイカウント
└ AutoPowerOff	オートパワーオフ
└ LCD Mode	LCD モード

MasterEQ

└ LowGain	ローゲイン
└ LowFreq	ローフリケンシー
└ LowQ	ロー Q
└ LowShape	ローシェイプ
└ MidGain	ミッドゲイン
└ MidFreq	ミッドフリケンシー
└ MidQ	ミッド Q
└ HighGain	ハイゲイン
└ HighFreq	ハイフリケンシー
└ HighQ	ハイ Q
└ HighShape	ハイシェイプ

Pad

└ PadFunc	パッドファンクション
└ CC Ch	コントロールチェンジチャンネル
└ CC Val	コントロールチェンジバリュー
└ FootClosePos	フットクローズポジション
└ FootSplashSens	フットスプラッシュセンシティブィティ
└ HH-KickVelSens	HH-KICK ベロシティセンシティブィティ
└ CymbalChokeRate	シンバルチョークレート

EffectSw

└ Variation	バリエーション
└ Chorus	コーラス
└ Reverb	リバーブ
└ SnareBuzz	スネアバズ
└ Resonance	レゾナンス

MIDI

└ MIDI IN/OUT	MIDI イン / アウト
└ ThruPort	MIDI スルーポート
└ LocalCtrl	ローカルコントロール
└ MIDI Sync	MIDI シンク
└ ClockOut	クロックアウト
└ SeqCtrl	シーケンサーコントロール
└ Merge	MIDI マージ
└ Rcv10ch	外部機器からの 10ch の受信
└ RcvPC	プログラムチェンジの受信
└ RcvPC10ch	10ch のプログラムチェンジの受信
└ PolyAfter	ポリアフターメッセージの送受信
└ SendHH	センドハイハット
└ DeviceNo.	デバイスナンバー

FactSet

└ PowerOn Auto	ファクトリーセット
----------------	-----------

MENU → Trigger	
Name	
└ Name	トリガーセットアップ名
Pad	
└ Curve	
└└ VelCurve	ベロシティーカーブ
└ PadType	
└└ PadType	パッドタイプの選択
└└ Gain	ゲイン
└└ RejectTime	リジェクトタイム
└└ MinLevel	最小レベル
└└ MaxLevel	最大レベル
└└ MinVelocity	最小ベロシティー
└└ MaxVelocity	最大ベロシティー
└└ WaitTime	ウェイトタイム
└└ Head/Bow	ヘッド / ボウ
└└ OpenEdgeOffset	オープンエッジ オフセット
└└ CloseCupOffset	クローズカップ オフセット
└ Sensitivity	
└└ Head/Bow	ヘッド / ボウ
└└ OpenEdge	オープンエッジ
└└ CloseCup	クローズカップ
└ NoiseFiltrTbl	ノイズフィルター
└ CrssTalk	
└└ Level	リジェクトレベル (オール)
└└ Level	リジェクトレベル
└└ From	
Job	
└ CopyPad	
└└ Pad1	コピーパッド
└└ Pad2	
└ CopyTrg	
└└ Bank	コピートリガー (バンク)
└└ Number	コピートリガー (番号)

MENU → Click	
Voice	クリックボイス
OutputSel	クイックアウトプットセレクト
MIDI In	クリック MIDI イン
MIDI Out	クリック MIDI アウト
MIDI NoteAcc	クリックエレメントボリューム (アクセント)
MIDI Note ↓	クリックエレメントボリューム (ノート)

MENU → Wave	
Common	
└ PlayMode	ウェーブの再生方法
└ Start	スタートポイント
└ Loop	ループポイント
└ End	エンドポイント
└ Decay	ディケイ
└ HHCtrlSens	ハイハットコントロール感度
└ Name	ウェーブ名
Job	
└ Import	
└└ Wave	ウェーブインポート
└└ PadAssign	パッドアサイン
└ ImportAll	ウェーブインポートオール
└ Normalize	
└└ Ratio	ノーマライズ
└ Delete	選択したウェーブの削除
└ DeleteAll	全ウェーブの削除
└ Optimize	メモリーの最適化 (オプティマイズ)
MemInfo	メモリーインフォメーション

MENU → File	
Save	
└ Type	ファイルのセーブ (タイプ)
└ File	ファイルのセーブ (ファイル)
Load	
└ Type	ファイルのロード (タイプ)
└ File	ファイルのロード (ファイル)
Rename	
└ Type	ファイル名の変更 (タイプ)
└ File	ファイル名の変更 (ファイル)
└ Name	ファイル名の変更 (名前)
Delete	
└ Type	ファイルの削除 (タイプ)
└ File	ファイルの削除 (ファイル)
Format	USB 記憶装置の初期化
MemInfo	メモリーインフォメーション

同梱ディスクについて

ご注意

- 付属のソフトウェアの著作権は、Steinberg Media Technologies GmbH が所有します。
- 以下に付属のソフトウェアのご使用条件が記載されています。付属のソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。ディスクの包装を解かれた場合は、付属のソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- 付属のソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 付属のソフトウェアのディスクは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ・ビジュアル用の CD/DVD プレーヤーでは絶対に使用しないでください。
- ヤマハ株式会社では、付属のソフトウェアについてのサポートは、一切行なっておりません。

付属 DAW ソフトウェアについて

同梱のディスクには付属 DAW ソフトウェアが入っています (Windows/Macintosh)。

NOTE

- 付属 DAW ソフトウェアをインストールするときは、管理者権限のあるアカウントで行なってください。
- 付属の DAW ソフトウェアを継続してご使用いただくために、ユーザー登録とソフトウェアライセンス認証が必要です。登録と認証は、インターネットに接続した状態で付属のソフトウェアを起動したときに行なえます。起動時に表示される「今すぐ登録」ボタンをクリックし、表示されたすべての項目を入力してください。登録と認証をされない場合は、インストール後、一定期間のみご使用いただけます。
- Macintosh の場合は、「.mpkg (拡張子)」のアイコンをダブルクリックしてインストールします。

最新の動作環境については、下記の URL をご参照ください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/smtg/>

サポートについて

付属 DAW ソフトウェアについては、スタインバーグ社のホームページをご覧ください。スタインバーグ社のホームページでは、製品に関するサポート情報や最新のアップデートのダウンロード、FAQ などを下記 URL にて公開しております。

<http://japan.steinberg.net/>

付属 DAW ソフトウェアの [ヘルプ (Help)] メニューからスタインバーグ社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには付属 DAW ソフトウェアの PDF マニュアルや追加情報なども掲載されています。)

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 持込み修理のお願い

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理品お持ち込み窓口へ本機をご持参ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

- ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

- 受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
- FAX： 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

◆ 修理品お持ち込み窓口

- 受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX 03-5762-2125
西日本サービスセンター 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ社本ニッセイビル7F FAX 06-6649-9340

■ ユーザーサポートサービスのご案内

- 電子ドラムの機能や取り扱いについては、最寄りの特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 管弦打楽器ご相談窓口

- ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-013-808

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-4111-4744 へおかけください。

- 営業時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
- <http://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ電子ドラム製品ウェブサイト：<http://jp.yamaha.com/dtx/>

ヤマハダウンロード：<http://download.yamaha.com/jp/>

ヤマハ株式会社 〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

ヤマハ電子ドラム製品ウェブサイト
<http://jp.yamaha.com/dtx/>

ヤマハ ダウンロード
<http://download.yamaha.com/jp/>

Manual Development Group
© 2011 Yamaha Corporation

2016年12月 改訂 PO***.*-**B0

WW02600